



YU-Information

No.132 ホームカミングデー特別号

特集：山口大学の今



山大ism

変わっていくもの
受け継がれるもの





YU-INFORMATION

No.132

山口大学広報誌

ホームカミングデー特別号／2017



Cover Story

[今月の表紙]

吉田キャンパスの収穫を間近に控えた秋の農場で、山口大学のマスコットキャラクター「ヤマミィ」と学生が豊かな実りを喜んでいます。大学の統合移転に伴い、農学部が下関市長府から吉田キャンパスに移り50年余りの間、守られてきた景色です。

山口の地で育まれた「山大ism」のように、これからも受け継がれていくことでしょう。

ホームカミングデー2017のテーマは「再発見し・見つめ・踏み出す 知の広場～来ていただけると幸せます～」です。あのころの仲間とともにキャンパスを歩いて、時代とともに進化し変わっていこうとする山口大学の今を感じてください。

おかえりなさい。

Contents

03

特集 山口大学の今

スペシャル対談

山大ism～あのころといま～
世代を超えた山大ism

06 山大風景 今と昔

07 人文学部×鴻文会

09 教育学部×教育学部同窓会

11 経済学部×鳳陽会

13 理学部×鴻理会

15 医学部医学科×霜仁会

17 医学部保健学科×双樹会

19 工学部×常盤工業会

21 農学部×農学部同窓会

23 共同獣医学部

25 国際総合科学部

27 大学院東アジア研究科

28 大学院技術経営研究科×技経会

29 医学部附属病院再開発整備事業

30 地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)

31 What's New? 山口大学 この一年

35 山口大学基金

37 維新伝心プロジェクト
図書館
東京事務所

38 ひと目でわかる山口大学

山大ism

Yamaguchi University

Back to the Past

バック・トゥ・ザ・パスト



1956

Back to the Past

真綿川沿いから望む県立医科大学附属病院(当時)
小串キャンパス

1946

Back to the Past

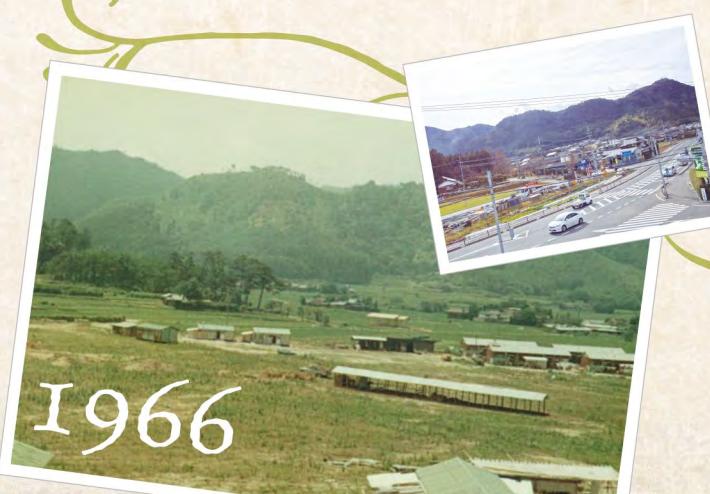
常盤キャンパス
丘の上に建つ宇部工業専門学校(当時)

Special Feature

あのころがあり、そしていまがある。変わっていくもの、受け継がれるもの。
巻頭企画の「スペシャル対談」では、卒業生と現役学生の対談を通して世代を超えた「山大ism」探ります。

「山大風景今と昔」は、写真を見る人の世代によって様々な感慨が生まれるのではないかでしょうか?

各学部・大学院やその同窓会の頁では、それぞれのホットな話題を紹介します。
また、卒業生や地域の皆さまにお知らせしたい内容を中心に、大学として推進している取組や最近の動向なども紹介しています。



1966

Back to the Past

吉田キャンパス
建築中の農学部から見た当時の農場



1966

Back to the Past

吉田キャンパス
山口市内に向かい撮影された移転工事中のキャンパス

山大ism

あのころといま

昔と今の山口大学はどう違うの？山大生の気質に共通点はあるの？そこで、卒業生と在学生、50歳の年の差があるお2人による対談を企画しました。世代を超えた山大ismを感じとつていただければ幸いです。



人文学部 人文学科 2年
姫山祭実行委員長
片山 実奈



山口大学 同窓会会長
福本 陽平

いつの時代も必要とされる リベラルアーツ教育

片山:先生が医学部を志望されたきっかけを教えてください。

福本:実家の隣に病院があったこと、5歳上の従兄弟が医学部に通っていたことなどから、医師をめざそうと思いました。実家は造り酒屋でしたが、両親は「家業を継がなくともいい。好きな道に進んでいい。」と応援してくれたので、医学部のある山口大学に進学しました。片山さんはどんなきっかけで入学されたのですか？

片山:小さいころから絵を描くのが好きでした。高校の先生からは美術の先生をめざしてはどうかとアドバイスされたのですが、なんとなく方向が違うなと感じていました。描く側ではなく、鑑賞する側から学んでみたい。過去の画家たちがどういう思いで作品を描いてきたのか、その背景を知りたいと思うようになりました。そこで、美術史が学べる大学を探しているうちに山口大学にたどりつけました。

福本:印象に残っている授業は何ですか？

片山:大学で初めて出会った哲学です。覚えるのではなく、深く考えるという思考スタイルの授業に新鮮さを覚えました。

福本:私も、大学で初めて哲学を学び「世の中にこんな学問があったのか」と衝撃を受けました。特に、医療において哲学の存在は重要です。言い換えれば、それを学んでいなければ、医療は半分しか成り立たない。なぜなら、患者さんに真摯に向き合おうとしたとき、人は何のために生きるのか、自分の存在をどうやって確かめるのかといった本質的な問題にぶつかることがあるからです。

片山:とても難しい問題だと思います。私は、倫理学に驚きを感じ、物事を深く考えるようになりました。以前、授業で、多数の命を救うために1人の命を犠牲にするのは許されるのかという「トロッコ問題」を学んだのですが、いくら考えてもはつきりとした答えが出せませんでした。

福本:その点、医療においては、明確な答えを出さなければいけません。例えば、人工透析の機械が1台しかなかったら、どの患者さんから使用すべきなのか。難しい選択ですが、決断しなければならないわけです。また、医師は病状を正確に患者に説明する義務がありますが、がんの告知の場合、伝え方によっては「死の宣告」になりますからねません。ですから、伝え方というのは非常に重要です。そうした課題に取り組む上でも、哲学や倫理学といった学びは非常に役に立つと思います。

つと思います。

片山:課題に直結なくても、物事の真理を突き詰めることで、さまざまな分野に応用できる考え方を身に付けられるんですね。

福本:その通りです。グローバル化が進む中、教養教育やリベラルアーツの重要性が叫ばれています。これまでの公式では解けないような問題が社会で起こったとき、物事の本質を捉え、解決策を生み出す力を持つためには、幅広い知識と深く考える力が必要になってきます。

片山:たくさんの学問を知っている人の方が解決策を見つけやすいということでしょうか。お話を聞いて、一つの課題をクリアするためには、さまざまな学びを関連づける力が必要だということを感じました。

福本:よく学生にはプロフェッショナルとは何かという話をします。一つの答えは、一般の人がもちえないような知識や技能を取得すること。もう一つの答えは、それを社会に還元すること。その両方が成立して初めてプロといえるのだと思います。医師免許を取得して開業する道もありますが、大学の医局に残って研究職を続ける、あるいは医師不足を解消するために地方で働くことなども、医師として大切な役割だと思います。



片山:学んだことを生かして、社会に貢献するのがプロということですね。人は何のために生きるのかという先程のお話にもつながってくるような気がします。

福本:私自身ロンドンに留学した経験から、語学、特に会話力を鍛えることも大切だと感じています。留学したい場合は、日頃から「行きたい」と手を挙げておくこと。いつでも行ける準備をしておくことが重要です。

片山:私も留学をしてみたいです。日頃から準備しておかないと、せっかくのチャンスがやつてきても生かすことができないですよね。

福本:医学部のカリキュラムには自己開発というコースがあります。これは、20年前に作られたコースで、3年次の半年間、自分がやりたいと思った研究や社会活動を行うものです。この時期に留学を経験する人もいます。過去にオーストラリアのボランティアのプログラムを探して実践した学生もいました。この自己開発コースは現在も継続しています。

片山:今も続いているというのは、きっと学生の「したい」という気持ちが強いからですね。そうした学生の意欲を受け止め、後押ししてくれるのも、山口大学ならではの良さだと感じます。

福本:そういえば、今もESS(English Speaking Society)部ってあるんですかね?

片山:あります!

福本:医学部の学生はよくそこに入りしていました。名門スタンフォード大学の学生とセッションする機会もあり、大変勉強になりました。それから、昔の教授はドイツ医学を学んでいたので、ドイツ語はコミュニケーションの手段でした。あるとき、教授からカントの『純粹理性批判』を原文で読むぞと言われ、私は原著を買えることに魅力を感じ、授業に参加しました。そのとき学んだ「人間には時間と空間の認識が生まれつき備わっている」という概念は、今も記憶に残っています。

キャンパスと 学生生活の今昔

福本:入学した当時、医学部は2年の医学進学課程と4年の専門課程の区分がありました。現在の一般教養(共通教育)にあたる教養部は、パークロード周辺の亀山地区にあり、上豊小路の下宿から自転車で通っていました。2年目から教養部が吉田地区に移ったため、平川の下宿からバイクで通学していました。

片山:キャンパスが美術館や市役所の辺りにあったとは知りませんでした。

福本:現在も、医学部の学生は、1年次は吉田キャンパスで過ごしています。私も吉田キャンパスに1年間通ったので、片山さんと共有できる話もあるのかなと思います。

片山:医学部というと勉強漬けのイメージですが、どんな学生生活だったのですか?

福本:ソフトテニス部に入っていたので、授業が終わると亀山地区的テニスコートに直行していました。今でも医学部の学生には、勉強だけでなく、部活やサークル活動にも参加するようにアドバイスしています。

片山:私は1年のときに姫山祭実行委員として活動しました。準備をするのは大変でしたが、とてもやりがいを感じました。「楽しかった!」と来場者に言われたのがうれしくて、自信につながりました。その経験から、今年は実行委員長を務めることにしました。

福本:高校のときと違うのは、自分たちの手で一から企画できるということですね。

片山:そうですね。みんなの意見を聞いた上で、ベストな解決策を導くのが面白く、やりがいを感じるところです。実行委員会にはいろいろな学部の学生が参加しています。学ぶ分野が違う人たちと一緒に活動できるのは、刺激があります。でも私は、人の上に立つのはそんなに得意ではないんです。先輩からは上に立っている感じがしないと言われてしまいました(笑)。

仲間との絆が
原動力になる!





福本:私が学生の頃は学生運動が盛んでした。権力に対しては抗議の声を上げるというのが当たり前の時代でした。2年のとき、自治会に入りました。授業が終わってからクラスに残って白熱した議論を交わしたり、キャンパスを守るためにバリケードを作ったりしたことありました。

片山:ものすごいエネルギーですよね。私たち今の学生は、思ったことを口にしない傾向があるかもしれません。嫌なことを嫌だと言える勇気がないというか、行動するのが苦手というか。

福本:全国的に見ても、真面目な学生が多いのかなと思います。良くも悪くも、平均的な人が増えたような印象を受けます。今、学生がストライキでも起こそうとしたら、周りが止めますよね。学生の自由な発想や思考を取り上げているのは、我々親世代なのかもしれませんね。

学びやすく住みやすい 学生にやさしいまち

福本:私がいた頃の医学部は、中国地方の出身者が1/3、九州が1/3、遠方が1/3といった感じでした。面白いことにそれぞれ地域性が違うんです。例えば、今度の試験にはどこが出るという情報を一番早く入手するのは関西人。演芸で必要な小道具を最後まで粘り強く作っていたのは九州人といった具合です。

山口大学 同窓会会長
福本 陽平

Profile

山口県玖珂郡玖珂町出身。
1966年 山口大学医学部入学、1972年卒業。山口大学医学部附属病院教授、医学研究科教授等を経て、医療法人社団宇部興産中央病院 名誉院長に就任。



もの受け継がれる
もの | 変わっていく

片山:面白いですね。私は岡山出身なのですが、山口には優しくて親しみやすい人が多いように感じます。

福本:宴會、今でいうコンパにもたくさん参加しました。その際に、各部で習った替え歌や芸を披露するんです。当時

は、一人につき一芸を披露するのが恒例でした。各部が主催するダンスパーティーもありましたね。

片山:そうだったんですね！今のお話を聞くと、私たちの世代は弾け方が足りないのかなと思ってしまいます。

福本:それがゆるされる時代、ゆるされる環境だったのでしょうか。昔から山口は学生にやさしいまちだと思います。

片山:分かります！最初は親元を離れて少し不安だったのですが、大家さんがとても親切だったので安心しました。アルバイト先の先輩も、ご飯に誘ってくれたり、相談にのってくれたり、よく面倒をみてくださるので助かっています。それに、まちのサイズが程よくて、住み心地がとても良いです。

福本:静かで落ち着いた環境の中で、自分のやりたいことに専念することができますよね。

大切にしていきたい リアルな人とのつながり

福本:学生の頃は、農家の2階を間借りして生活していました。他人と一緒に生活するのが当たり前の時代でした。お風呂とトイレは共用、食事

は大家さんの家族と一緒に食べていました。今的学生さんは抵抗があるかもしれないですね。

片山:いや、そんなに嫌じゃないです。家族と離れて一人で暮らすのは寂しいので、しおちゅう友達のアパートに集まつては一緒にご飯を食べています。

福本:私も、授業やサークルの帰りに友達の家に遊びに行ったり、試験前には勉強が一番できる友達の下宿に行って、彼が寝てからノートを見せてもらったり（笑）。医学部は1学年60人で、6年間ずっと一緒に過ごしましたからね。いまだに仲が良くて連絡を取り合っています。毎年クラス会も行っています。

片山:そういった人間関係の距離感の近さは今も続いているような気がします。友達同士、SNSで連絡を取り合うことが多いのですが、画面上の付き合いは、なんとなく不安というか、寂しいというか。やはり直接会って顔を見て話した方が安心します。

福本:それを聞いてホッとした。特に、吉田地区にはたくさんの学生が住んでいるので、顔を合わせる機会も多いですね。友達や先輩と一緒に過ごす時間が長い分、人との距離感をうまくつかめるようになるかもしれません。それに、ゆったりとした山口の環境も良い影響を与えていたのだと思います。人とうまくやつていける能力を育てられるのも、山口大学の良さの一つだと思います。

片山:これからも人との出会いを大切にしています。そこからさまざまな情報や知識、考え方を吸収して、ステップアップしていきたいです。

福本:たくさんの人と出会えるのは学生の特権です。ぜひ学内外の多くの人とつながりを持ちながら、視野を広げ、人生のエネルギーとしてください。そして、目標を見つけて、努力し続けてください。きっと将来を切り拓く力になるはずです。

人文学部 人文学科 2年
片山 実奈

Profile

岡山县加賀郡吉備中央町出身。2016年 山口大学入学。第68回 姫山祭実行委員長として活動。好きな学びは、美術史や音楽、哲学。日々大切にしているのは一期一会。



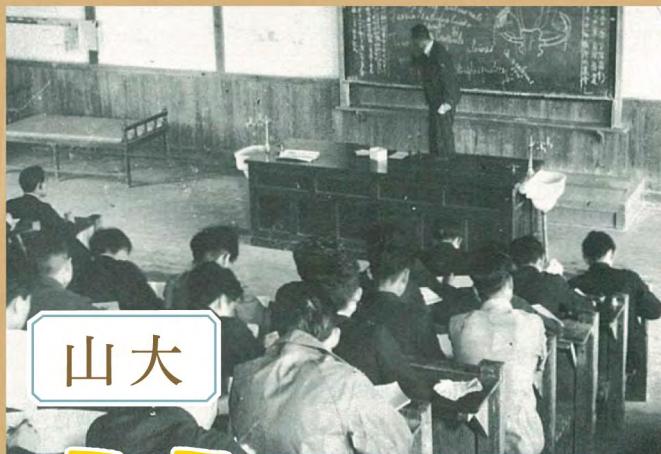


大学祭は、昭和24(1949)年の開学から毎年欠かさず行われています。

キャンパスごとに、姫山祭(吉田キャンパス)、医学祭(小串キャンパス)、常盤祭(常盤キャンパス)と呼ばれ、学生が楽しむだけでなく、地域の方との交流の機会にもなっています。

今年も11月に開催されます。
裏表紙のイベントスケジュールをご覧ください。

今と昔 風景



大学の授業風景は時代とともに変化しています。講義やゼミナールなどオーソドックスな授業も大切にされていますが、学生の主体的な学びを引き出すためアクティブラーニングなど新しい教育手法も次々と取り入れられ工夫されています。また、遠隔講義システムやICTの活用など様々なツールの活用も進んでいます。





古代テクノポリス山口 周防鋳銭司跡発掘調査

山口県域に なぜ古代テクノポリスが？

歴史や文化を語る際に、幕末維新期や中世の大内文化がクローズアップされることの多い山口県ですが、それ以前の時代に、日本を代表するテクノポリス（最先端鉱工業地帯）があったことをご存じでしょうか？

古代の山口県域では、貨幣の鋳造が下関市の長門鋳銭所や山口市の周防鋳銭司で行われ、奈良東大寺の大仏造立や貨幣の鋳造には、美祢市の長登銅山で採掘、製錬された莫大な量の銅が使用されています。

山口学研究プロジェクト「古代テクノポリス山口」では、当時の最先端の知識や技術を必要とした古代国家の経済的基盤や宗教的人心掌握の根幹をなす事業が、政権の中心である畿内から遠く離れた山口県域（長門・周防国）を舞台に展開されたことの必然性を探ります。

このプロジェクトでは、従来の考古学の枠組みを超えて、文系領域（人文科学・社会科学）と理系領域（自然科学）の両方の要素を含ん

だ学際的な体制のもとでアプローチすることになっています。鉱物や地質、また地形などに詳しい理系の研究者がプロジェクトメンバーに加わることで、これまでにない新しい歴史像が描き出せるかもしれません。さらに、本プロジェクトは学内にとどまらず、山口学研究センターと千葉県佐倉市にある人間文化研究機構国立歴史民俗博物館との研究協力協定によって、同研究所のメンバーを中心に大阪大学や名古屋大学などの研究者によって構成された研究チームとも共同研究に入っています。また、研究成果を広く地域社会に還元することによって、観光資源など地域資産の創出を目指しています。

周防鋳銭司跡の 発掘調査スタート

今年8月、周防鋳銭司跡（鋳銭司・陶地区）の半世紀ぶりの発掘調査が始まりました。発掘は、考古学の研究を専門とする人文学部の田中晋作教授を中心にしたメンバーが、山口市教育委員会文化財保護課や地域のみなさ

んと協働で行っています。今回の調査は、史跡周防鋳銭司跡の整備に向けて、1960～70年代に行われた発掘調査の確認、史跡内の遺構の分布状況や残存状況の把握、さらに周防鋳銭司関連遺跡の調査等を目的とし、2020年度までの計画で実施されます（第1期）。

これまでの2度の調査で、鋳損じ銭や鋳造に使用された大量の坩堝や轍の羽口、また倉庫群などの関連施設が発見されことから、平安時代の鋳銭司と認定され、1973年には「周防鋳銭司跡」として国指定史跡となりました。しかし、これまでの調査では貨幣の鋳型は見つかっておらず、鋳造方法をはじめその全容はまだ解明されていません。今回の調査では、遺物が多く見つかった地点や関連施設の存在が確認された地点を集中的に調べます。

山口学研究プロジェクト「古代テクノポリス山口」は、2020年度を目標に第1期の調査、研究を進めていきます。進捗状況などのトピックスを大学webサイト等でお届けしますので、応援をお願いします。

【山口学研究センターweb】
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yamaguchigaku.html>



鴻文会 Topics

鴻文会総会を開催 - 公開講演「生誕 110 年・中原中也の可能性」-

8月26日(土)、第10回鴻文会総会を山口大学大学会館において開催しました。総会は4年毎に開催しています。今回は、総会の一連行事として、山口大学文理学部文学科(人文学部の前身)の卒業生である中原中也記念館館長の中原豊氏を講師に招き「生誕110年・中原中也の可能性」と題した公開講演を行いました。

鴻文会の会員のみならず、一般の方も多くお越しになり、中原中也の詩「帰郷」を中心に、その背景にある故郷・山口との関わりや、詩にまつわるエピソードに、詩がもつ様々な可能性と深淵に触れたひとときとなりました。



鴻文会 会員:約8,700名 設立:1981年

正会員:人文学部、人文科学研究科、文理学部文学科、及び文学専攻科の卒業生・修了者

準会員:在学生 特別会員:旧・現教員

「鴻文会」の名称は、山口市内の由緒ある鴻の峯にちなみ、大鳥のごとく将来雄飛することを願って命名されたものです。

主な活動

◆会員親睦事業、母校支援事業 ◆同窓会会報「鴻文」の発行 URL : <http://koubun.la.coocan.jp/index.html>

人文学部生涯学習推進室の公開講座

人文学部生涯学習推進室は山口大学地域未来創生センターと協力して公開講座を開講しています。吉田キャンパスで開催する「やまぐちサタデー・カレッジ」は春と秋の開講です。

2017年春のテーマは、「後期ローマ帝国時代のコンスタンティノープル市とウラレンス水道橋」。南雲泰輔講師が、紀元後4世紀のローマ帝国によるコンスタンティノープル市(新首都)の創建に伴い課題となったインフラ整備について、今もイスタンブル市内に屹立するウラレンス水道橋に焦点を当て紹介しました。

秋のテーマは、「フランスの無声映画」。Michel de Boissieu准教授がフランスの代表的な無声映画(1895年～1930年)の視聴を通じて、フランス文化の世界に誘います。

また、防府市教育委員会との共催により防府市文化福祉会館で開催した公開講座は、

池田 勇太准教授が「明治維新はどのような変革だったのか」と題して講演を行いました。

人文学部生涯学習推進室は来年度も同じく、春と秋に「サタデー・カレッジ」を、夏の終わりか秋に防府市で「公開講座」を計画しています。



人文学部

なぜ学ぶ。何を学ぶ。どう学ぶ。 Faculty of Humanities



(学部)

人文学部

人文学科

・哲学コース ・歴史学コース ・社会学コース ・日本・中国言語文学コース ・欧米言語文学コース

(大学院)

人文科学研究科

修士課程 人文科学専攻

東アジア研究科

博士後期課程 東アジア専攻

人文学部 Web サイトで「ピックアップ研究室」公開しています。 ➡ http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/?page_id=14007



× 教育学部
同窓会



「還」ちゃぶ台を囲んで12年 原点に戻って、見つめ直し、また歩み出す

「ちゃぶ台」と銘うった学びの機会が平成17年度より始まりました。 「ちゃぶ台」のネーミングには、上座下座のない丸い「ちゃぶ台」を囲みながら、暖かく和やかな雰囲気の中で、語り、話し、慰めあいながら人としての生き方、知恵や技を「立場を超えてお互いに学びあい、高めあう、学びの場」を創造したいとの願いが込められています。 「ちゃぶ台方式」のプログラムは、教育学部の建物内に設置された「ちゃぶ台ルーム」を拠点に、多くの学生、現職教員、大学教員、教育関係者が参加してきました。 さらに、このような協働の場から、新たな「ちゃぶ台方式」のプログラムが生まれ、現在

15のプログラムが展開されています。

多くの学生たちがプログラムに参加し、ちゃぶ台ルームで「成功体験」や「失敗体験」「悩み」「不安」を語り合うことで、問題を解決する力をはぐくみ、学校教育の現場に卓立って行きました。

また、教育の現場も刻々と変化しており、現代的教育課題に向き合うためには、常に正解のない問を抱き続け、探し続ける姿勢が求められます。教育委員会や現職教員からの「学び続ける」ことへのニーズに応え、現職教員を主対象とした協働型教職研修も行っています。

今年11年目となる若手現職教員を対象とし

た「次世代コーホート Basic Course」は、月1回のペースで土曜日に、「授業づくり・子ども理解・生徒指導・学級経営・人間関係力・集団指導・保護者連携・人権・地域教育・道徳教育・キャリア教育・特別支援教育・ICT等」のテーマを持ち寄り、講義演習、体験型研修や交流会などが行われます。

情報交換、ネットワークづくりにも一役かっています。

4年前から、3年～15年目までの現職教員と教職大学院生を対象としたミドルリーダー養成研修、「次世代コーホート Advanced Course」も開始しており、今年度は教職員研修の活性化、教育行政と比較研究、教職員組織の形成、チームビルディングとコーチング、地域資源を活用したカリキュラム開発の方針について理解を深めていただく機会となりました。

ちゃぶ台プログラムのメニュー紹介

【現職教員などと学生、大学教員が交流するプログラム】

1 次世代コーホート Basic Course	大学 年5回程度	20代から30代前半の若手現職教員と学生による合同教職研修。講義演習、事例研究、研究協議等を行います。
2 次世代コーホート Advanced Course	大学 年5回程度	現職教員を主対象とした協働型教職研修を行います。
3 理科ネット	大学 年10回程度	現職教員と学生、大学教員による合同教育研修。研修会、出前講義、自然観察会等を行います。

【学生が学校や地域の活動に入っていくプログラム】

4 保育ボランティア	幼稚園／保育所4月～3月	学生の幼稚園・保育所派遣。保育補助や遊び等の幅広い保育体験を行います。
5 学校チューター	小学校 4月～3月	学生の小学校派遣。授業補助、クラブ、放課後活動等の支援。発達障害児を中心とした特別支援教育指導補助を行います。
6 理科ボランティア・アシスタント	小学校 5月～3月	学生の小学校派遣。理科教育補助、実験準備・実施・片付け等の教職体験を行います。
7 体育実技ボランティア	小学校	学生の小学校派遣。体育指導補助、スポーツ・体力づくり等の教職体験を行います。
8 ICTサポーター	4月～3月	学校でのICT活用教育導入のサポート・支援を行います。
9 学力向上等支援員	中学校／高等学校4月～3月	中学校や高等学校で授業支援を行います。
10 林間学校	地域 年4回	小学生を対象に教育キャンプの企画・運営、指導経験と省察による実践研修を行います。

【ちゃぶ台ルームを通じた個別支援など】

11 相談室・ほ(つと)けん(しゅう)室	5月～3月	教職経験者による学生対象の相談活動を行います。
12 研修会	4月～3月	学生のニーズに応じた各種研修会を行います。
13 教職概論支援		大学における教職スタート科目「教職概論」の指導方法の工夫改善を行います。
14 教職実践研究		ちゃぶ台方式プログラムの推進、効果測定、方法検討等を行います。
15 電子版ちゃぶ台(e-ちゃぶ)		ちゃぶ台方式プログラムの情報発信を行います。



教育学部同窓会 Topics

平成 28 年度 ちゃぶ台次世代コーホート研修会の活動報告

10月から3月、月1回、計6回の研修行事への延べ参加者は511名でした。現職教員の参加も年々増えていますが、ピアサポートを目的とした班別活動などを充実させるためにも、より多くの参加があることが望ましく、是非協力をお願いしたいと思います。特に若手の先生方は、同世代の教員や学生との交流の中で、新たな課題や目標を見つけ、それぞれの教育現場へ帰って行かれる姿が印象的です。



教育学部同窓会 会員:約30,000名 25支部を組織

正会員:教育学部と教育学研究科、教育学部の前身である、山口県教員養成所、山口県師範学校、山口県尋常師範学校、山口師範学校(山口)、山口県室積師範学校、山口県女子師範学校(光)、山口県立青年学校教員養成所(小郡)、山口青年師範学校(防府)の卒業生・修了生 特別会員:旧・現教員、準会員:在学生

主な活動

◆山口大学日中学术交流への助成 ◆教員の資質向上研修への助成 ◆県下の青少年健全育成サークルへの助成
その他、会員親睦事業、母校支援事業など ◆拡大役員会開催 今年度5月20日(土)に開催しました。次年度5月12日(土)に開催予定

教育学部

ふれあうのは、心とひと

Faculty of Education



(学部)

教育学部

学校教育教員養成課程

・小学校教育コース ・幼児教育コース ・特別支援教育コース ・情報教育コース ・教科教育コース

(大学院)

教育学研究科

■修士課程 ・学校教育専攻 ・教科教育専攻
■専門職学位課程 教職実践高度化専攻

東アジア研究科

博士後期課程 東アジア専攻

平成 28 年 4 月、専門職学位課程「教職実践高度化専攻」が設置されました。

教員養成に特化した教職大学院で、教育力に加え、高度なマネジメント力を持つ、現場のリーダー教員の養成を行っています。
教職大学院ニュースレター「学燈」も配信しています。 ➤ http://edu.yamaguchi-u.ac.jp/grad/orga/prof_sch.html

経済学部

同窓会
× 鳳陽会

受験生に向けて学部情報の発信を強化



「経済学部案内2017」を作成し、夏のオープンキャンパスや大学見学などの機会を通じて、受験生やその保護者の方にお届けしています。

これまで、学部リーフレットは発行していましたが、冊子での発行は今年度が初めての試みです。経済学部に興味を持ってください

ている受験生やその保護者の方に、より分かりやすく本学部の魅力をお伝えできるよう、学科やコースの紹介、入試状況に加え、在学生や卒業生の声なども掲載しています。卒業生の声は、株式会社セプテニ・ホールディングス名誉会長、山口県庁、山口銀行、広島東洋カープに勤務の方々、バングラデシュからの留学生の方からもメッセージをいただきました。

同冊子では、記事のボリュームを増やしたことで、本学部の先進的・特徴的な取組も紹介しています。

学部教育では、公認会計士や税理士を目指す「職業会計人コース」、国の観光立国戦略政策を踏まえ設置した「観光政策学科」など特徴ある教育プログラムを他に先駆けて行つきました。

大学院教育では、JICAからの要請を受け設置した、全て英語の授業による「公共管理コース」において、JDS(日本政府の無償資金協力による留学生の受入)、PHRDPIII



(インドネシア政府による第3期高等人材開発計画)、PEACE(アフガニスタン国未来への懸け橋・中核人材プロジェクト)ABEインシアティブ(アフリカの若者のための産業人材育成インシアティブ)など発展途上国での人材育成を通じ日本政府の外交政策に寄与してきました。

また、医療・福祉施設におけるマネジメント人材を育成する医療・福祉経営コースの修了生は地域医療・福祉の分野で活躍しています。このような実績は学部教育の公共管理コースや医療経営プログラムにも展開されています。

【経済学部案内2017はwebからも御覧いただけます。】
<http://www.econo.yamaguchi-u.ac.jp/>

時代とともに 山口大学×文榮堂 地方創生プロジェクト

文化発信の拠点である書店が市町村に1店舗も存在しない「書店ゼロ自治体」は、全国約370か所にまでのぼり、全国の市町村数のうち2割強を占めるまでとなりました。山口県もその例外ではなく、一部市町村には書店がありません。また、人口減少や過疎化の問題も進行しています。

そのような状況下で、「文化発信の拠点である書店から、地方創生を考える」というテーマのもと、経済学部 松田温郎准教授のゼミ受講生を中心とした11名の学生による産学連携プロジェクトがスタートしました。



学生が創業68年を迎えた書店、文榮堂を起点に地域の活性化に挑む!!

山口県で68年続く文榮堂を起点に、日本出版販売株式会社が展開する、本のある空間づくりや選書などをを行うブランド「YOURS BOOK STORE(ユアーズブックスストア)」の協力を得て、「これまでにはなかったユニークな切り口や取り組みで書店を元気にする」をキーワードにプロジェクトを展開します。

文榮堂は山口大学吉田キャンパス近くの山口大学前店をはじめ、本学の卒業生にとっても、青春の1冊と出会った想い出深い書店ではないでしょうか?

今年9月にスタートした本プロジェクトは、全12回の授業を通じて実施されます。外部講師として月刊「ソトコト」編集長の指出一正氏、山口情報芸術センター(YCAM)エデュケーターの石川琢也氏を迎え、学生たちはアイデアへのアプローチ方法について学びます。

その後、学生たちはチームに分かれ、アイデアを出し合うだけでなく、マーケティングや損益構造など、そのアイデアを「商売」として実現化するにあたって必要な事柄を、さまざまな角度から検証、議論し、企画書を作成します。

12月には、学生らがアイデアを文榮堂へ発表するコンペが開催され、学生によるプレゼンテーションが行われます。優秀なアイデアについては、来年1月中旬を目途に文榮堂(本店または山口大学前店)で実現させる予定となっており、学生がどのようなアイデアを実現させ、地域の活性化につなげて行くのか、目が離せません。

地域とともに

済生会山口地域ケアセンターと包括的な連携協定を締結

今年9月、経済学研究科は、済生会山口地域ケアセンターと「包括的な連携協力に関する覚書」の調印を行いました。この覚書の締結により、地域の総合的な医療・福祉の発展に寄与するため、本研究科修了生による授業の提供、本学学生や済生会山口地域ケアセンター職員の人材育成、地域における医療福祉マネジメントの施策、共同研究などのより一層強い連携体制が構築されることになります。

山口県内においても医療や福祉の現場においてマネジメント人材の育成は急務となっており、現場の課題解決に資する人材の育成が大学にも求められています。済生会山口地域ケアセンターに在職している本学の修了生に、講師として学生の指導に携わってもらうなど、社会の実情に則した教育が可能となります。このような取組の中から、真に必要とされる卓越した医療・福祉経営人材育成が育っていくことが期待されます。

調印式では、成富 敬大学院経済学研究科長(経済学部長)と 安武 俊輔済生会山口地域ケアセンター所長の挨拶の後、覚書に署名、押印が行われました。



一般社団法人鳳陽会 Topics

学生による全国総会参加の感想

今年6月に商都大阪で開催された「鳳陽会全国総会」

経済学部3年生の加藤大貴さんが、学生ゼミナール連合協議会会長として出席し、大先輩を前に学生代表として挨拶を行いました。

加藤さんは、お笑い芸人の生の芸を見て笑いの聖地大阪の土地柄に触れたこと、何より年齢差70の先輩と後輩が親しく懇談、交流する機会は、普段体験することのできない貴重な経験だったと機関誌「鳳陽」第161号の中で語っています。



鳳陽会 会員:約19,600名 設立:1908年(明治41年) 全国40支部

会員:山口高等商業学校、山口経済専門学校及び、山口大学経済学部、大学院経済学研究科の卒業生、修了生

主な活動

- ◆経済学部に対する支援:就職相談、模擬面接の実施等の学生の就職活動の支援 職業会計人コースや英会話集中講義等の経済学部の取組に対する支援・助成
- ◆同窓会活動:機関誌「鳳陽」の発行 全国総会の開催 会員の動静管理や鳳陽会関係資料の充実

URL:<http://www.houyou.or.jp>

E-mail:houyou99@crocus.ocn.ne.jp

経済学部

「伝統の力」－誇りを胸に－

Faculty of Economics



(学部)

経済学部	経済学科	本科（経済・国際経済）
		公共管理コース
	経営学科	本科
経済学部		企業法務コース
		職業会計人コース
	観光政策学科	本科
		観光経済分析コース
		観光コミュニケーションコース

(大学院)

経済学研究科

修士課程 経済学専攻
企業経営専攻

東アジア研究科

博士後期課程 東アジア専攻

経済学部 Web サイトでコラム「経済学部キャンパス便り」を公開しています。 ➡ <http://www.econo.yamaguchi-u.ac.jp/>



国際化の推進に向けて

サマープログラム2017 開催

理学部では、留学生の獲得につなげるため、平成28年度から「サマープログラム」を導入し、体験学習を通じて学部の魅力を広く発信しています。また、理学部学生が積極的にサポートとしてかかわることで、グローバル化の推進も期待されています。

今年8月27日から9月1日までの日程で開催された今回は、台湾大学、台湾師範大学、中国の湖州師範学院から14名の参加があり、理

学部の学生約20名が、講義や演習の補助、日常生活のサポートなどを行いました。

山口大学理学部ならではのプログラム

今回のサマープログラムは、山口県美祢市に位置する秋吉台国定公園を舞台に、地学と生物の実習からスタートしました。今年3月、美祢市立秋吉台科学博物館内に、本学の教育研究活動の拠点として「山口大学秋吉台

アカデミックセンター」が開設されたこともあり、学術的な交流が進展しているところです。博物館学芸員の協力を得て、地元の美祢青嶺高校の生徒も加わり、カルスト台地のフィールドワークや洞窟探検が行われました。

理学部のコンピュータ室では、情報のプログラム実習が行われました。実験室では、白衣に着替えて化学の分析実験が行われました。また、数学の講義では、日本文化の一つである折り紙を使ったユニークな演習が行われ、参加者は真剣な眼差しで取り組んでいました。

プログラムの最後は、本学が研究に使用している山口市仁保の電波望遠鏡の見学でした。事前に物理の電波天文の講義を受けた学生たちは、大きなパラボラアンテナの実物を見て、その構造や機能を確認していました。

楽しかったプログラムはあっという間に最終日を迎える、それぞれの留学生による3分スピーチの後、理学部長から留学生へ修了証書が手渡されました。

国際交流にはハブニングもつきものです。開始初日に上海からのフライトが遅れ、中国の学生が歓迎会に間に合わないというアクシデントもありましたが、最終日には参加者同士ですっかり打ち解け、理学部学生の粋な計らいで、この日が誕生日の留学生を皆で祝うというサプライズ企画もありました。

8.28 MON



Full day: Excursion on geology and biology around Mine Akiyoshidai Geopark, including breathtaking limestone cave.

8.29 TUE



Lecture on informatics.
[Bioinformatics
(modeling of gene networks)]

8.30 WED



AM: Lecture on Mathematical Sciences.
[Plane tiling problems by regular polygons]



PM: Lecture on chemistry.
[Chemistry Experiment]

8.31 THU



Fieldtrip: Yamaguchi 32m/34m radio telescopes.

鴻理会 Topics

理学部卒業生と学生の茶話会開催

鴻理会と理学部就職委員会の共催で卒業生と学生の茶話会を開催しました。

OBやOGの方々への参加は、鴻理会を通じてお願いしています。平成28年度は学生約70名の参加があり、松野 浩嗣理学部長、友永 進鴻理会会長の挨拶の後、6グループに分かれ、卒業生から現在の仕事の様子、就職活動の体験談、社会人として働くことの心構え等が紹介されました。茶話会は終始リラックスした雰囲気で進み、学生たちは先輩方に積極的に質問し、参加学生からは大変好評でした。



鴻理会 会員:約8,800名 設立:1981年

正会員:理学部とその研究科、旧文理学部理学科と理学専攻科の卒業生・修了生、 特別会員:旧・現教員、準会員:在学生

主な活動

◆学生の学会等派遣助成事業 ◆学生の海外派遣助成事業 ◆講演会等開催事業 ◆同窓会会報の発行 ◆会員親睦事業、母校支援事業など

◆鴻理会総会の開催 次回:2018年開催予定

URL:<http://www.geocities.jp/koridoso/>

国際深海科学掘削計画の日本代表として海外へ！



国際深海科学掘削計画は、平成25年10月から始動した多国間国際協力プロジェクトです。このプロジェクトには、日本、アメリカ、ヨーロッパ(17カ国)、中国、韓国、オーストラリア、インド、ニュージーランド、ブラジルの25カ国が参画しており、日本の地球深部探査船「ちきゅう」、米国の掘削船「ジョイデス・レゾリューション号」を主力掘削船とし、地球環境変動や地球内部構造、地殻内生命圈などの解明を目的とした研究を行っています。

この国際海洋掘削計画の第362次「スマトラ地震発生帶掘削航海(平成28年8月～10月)」に日本代表として参加したのが、当時、大学院理工学研究科博士前期課程2年だった藏永 萌さんです。プロジェクトの目的は、2004年に発生したスマトラ沖地震の震源沖合を掘削し、巨大津波の発生メカニズムを解明すること。世界各国30余名の研究者と共に「ジョイデス・レゾリューション号」に乗船し、2ヵ月の間、スマトラ沖の洋上から深海底を掘削ボーリングしました。

スマトラ沖地震で甚大な被害をもたらした巨大な津波は、より浅い海溝付近で発生しており、海溝付近でなぜ大きな断層すべりが生じるのか、この特殊な断層すべりの発生メカニズムの解明が、日本における東北沖の日本海溝や南海トラフ沿いの巨大津波発生メカニズムの解明にもつながることが期待されています。

この研究航海では、海底下の約1,500mから掘削試料(サイトU1480およびU1481)を採取することに成功し、地震を発生させる断層の発達過程において、海底下深部での堆積物の強度増加を伴った鉱物の脱水作用が、巨大地震・津波を発生させることを突き止め、研究成果はアメリカ科学雑誌「サイエンス誌」第356号(2017.5.26)に掲載されました。

そして今年、国際海洋掘削計画の第368次「南シナ海の形成過程解明航海(平成29年5月～7月)」に日本代表として参加したのが、大学院創成科学研究科博士前期課程1年の大園 宣明さんです。2ヵ月間、海外の研究者たちと昼夜を問わぬ議論を深め、切磋琢磨して日本に帰国しました。これからのお研究の発信が楽しみです。

乗船中の様子や研究成果は、山口大学公式facebookでも配信しています。<https://www.facebook.com/YamaguchiUniversityOfficial>

理学部

時代を創る科学者になろう！

Faculty of Science

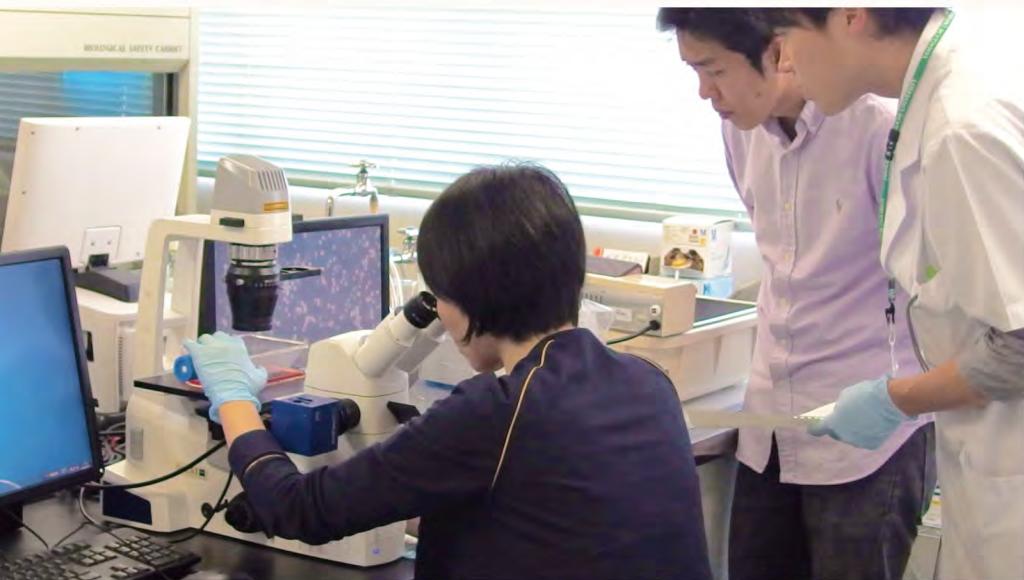


理学部 Web サイトで「学部長のつぶやき」を公開中！理学部の最前線情報を楽しんでください。

<http://www.sci.yamaguchi-u.ac.jp/sci/tweet>

医 学 部 医 学 科

同窓会
× 霜仁会



革新的医療技術による新たな挑戦 「地域イノベーション・エコシステム形成 プログラム」が始動

山口県は高齢化率が全国に比べ早いペースで進み、生活習慣病やがんによる死亡率も全国比で高い状況にあります。

このため、「健康長寿社会の実現」へ貢献する取り組みが喫緊の課題となっています。

そこで、山口大学医学部では、大学の使命として、既存の医療技術、医薬品、医療機器では効果的な治療ができない、もしくは十分でない医療分野の患者さんに目を向け、山口地域に集積する医療関連の企業群と連携して、本学の有する革新的医療シーズの事業化を推進することを考えました。

この目的を果たすため、本学では山口県と共同で「革新的コア医療技術に基づく潜在的アンメット・メディカル・ニーズ^{※1}市場の開拓及び創造」と題して平成29年度文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に提案し、9月に採択が決まりました。これから33年度までの約5年間をかけて、革新的医療シーズの事業化を進めます。事業化プロジェクトとしては、患者数が多く、

従来の治療では根治が難しいがんに対して、「固形がんに対する次世代型CAR-T細胞療法」でアプローチするものです。これはバイオベンチャー企業と共に行います。

CAR-T細胞療法とは、患者さん自身の免疫に関与する細胞(T細胞)を使う免疫療法に、キメラ抗原受容体(CAR: Chimeric Antigen Receptor)遺伝子による免疫調整技術を加えたものです。実際には、T細胞と呼ばれる病気と闘う白血球を患者さんの血液から取り出し、その遺伝子を組み換えて、10日間～2週間ほど培養した後に、患者さんの体内に戻します。

遺伝子を改変されたCAR-T細胞は、がん細胞上の抗原蛋白を認識し、これを標的として攻撃を開始します。

CAR-T細胞療法は、これまで白血病をはじめとする血液がんを主な治療対象としてきましたが、本学では、肺がんなどの固形がんに対しても効果を発揮する次世代型のCAR-T細胞療法を開発し、既に特許化しています。この療法は、3大がん(胃がん、大腸がん、肺

がん)の治療法(手術、放射線治療、化学療法)との併用が可能であることから普及が望まれています。

最大の問題点として、コストが高いため、今後多くの人にこの技術を活用し、治療を行うために、既製のCAR-T細胞を大量培養する手法を確立し、製造したCAR-T細胞を安定的に提供できるような細胞の保存・運搬技術の開発や、細胞培養の全自動化システムの開発などが期待されています。

もう一つは次世代プロジェクトで、コア技術「局所脳冷却^{※2}」を使い、難治性てんかんや重症脳卒中などに対する新しい治療法を提案するものです。

これらは、治療薬の必要性が高い患者数が5万人未満のいわゆる希少疾患と呼ばれる難病です。この治療法の開発が進めば、難治性てんかん患者の薬代年間約1,140億円の医療費削減が見込めるため、社会的意義が非常に高いアプローチとされています。

これらを山口地域に集積する医療関連の企業群と連携して推進することで、地域の医療産業の推進・支援・実績に結び付けると同時に、山口県全体の産業活性化を図ります。

^{※1} まだ有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズのこと

^{※2} 脳表を直接冷却することで異常脳波を抑制するもの



医学模型に取り付けたコア技術
「局所脳冷却」装置

一般社団法人 霜仁会 Topics

医学部医学科白衣着衣式を挙行

医療系大学間共用試験実施評価機構が実施するCBT(医学知識を問う試験)とOSCE(基本的診療技能・態度、手技を問う試験)に合格すると医学実習生としての臨床実習が始まります。

霜仁会では、臨床実習を前に医学生としての決意と自覚を確認するために白衣の贈呈を行っており、平成29年1月27日に挙行された式典では、福本陽平霜仁会会長から祝辞が述べられ4年生105名へ白衣が贈呈されました。学生代表の口分田啓さんは「初心を忘れず、臨床実習を充実したものにするために白衣をいただいたこの日から、山口大学の看板を背負うことを自覚し、地域社会への貢献のため、日々精進していくことを誓います。」と宣誓しました。



一般社団法人 霜仁会 会員: 5,977名(平成29年4月) 設立: 1980年 全国33支部

正会員: 医学部医学科とその研究科、旧山口県立医学専門学校と山口県立医科大学の卒業生・修了生と医学部医学科の学生、その他;特別会員、一般会員、名誉会員

主な活動

- ◆山口県における市民医学講座への助成 ◆県障がい者スポーツ協会への助成 ◆県内外の公共施設等への「自動体外式除細動器(AED)」の寄贈
- ◆病理組織・細胞診検査や動物実験研究用病理標本作成 ◆霜仁会賞(学術研究の発展と奨励、社会福祉および医学の向上に寄与した者)への贈呈
- ◆霜仁会卒後臨床研修ネットワークによる研修医へのサポート ◆同窓会会報の発行
- ◆会員親睦事業、母校支援事業など ◆霜仁会総会の開催

URL:<http://soujinkai.jp/>

人工知能による予測個別化医療をめざして

現在、保健医療分野においても人工知能(AI)の活用が進められています。厚生労働省は平成29年4月、画像診断支援やゲノム医療などの領域で、AIの本格導入を促進するガイドラインを策定し、AIによる医療体制の整備に必要な基盤を固めました。

今後、AIによる予測・予防医療が進展すれば、医療における価値観が、最先端の治療から、発症防止や発症前診断・治療へと劇的に変化を遂げることも期待されます。

本学の大学院医学系研究科では、今年4月に日本ではまだ数少ないシステムバイオインフォマティクス(※3)を専門とする講座を設立しました。同講座では、システム工学の考え方や解析手法を生物学に導入し、遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持つ「情報」の分析を行います。

生理機能などの生命現象をシステムとして理解し、ひとたび数理モデルを構築すれば、異なる状況における物体間に働く力と、それによって生ずる運動をシミュレーションにより取り出すことができます。

現在、臨床・実験系の研究室との共同研究により、神経系の情報伝達機能、臓器内分泌機能、心機能、薬物動態などに関するモデルを作成し、シミュレーション研究を展開しています。今後はさらに、他の医療分野へも研究を発展させて行く予定です。

今年6月、同講座設立を記念し、從来から本学で成果を挙げてきた難治性疾患研究を新たな視点から一層加速し、発症機序・病態の解明と診断・治療法開発につなげることを目的としたシンポジウムが開催され、最新の知見に触れる機会となりました。

(※3)生命情報学。遺伝子やたんぱく質の構造といった生命がもつ情報を分析することで生命について調べる学問分野



医学部医学科

信頼される未来派医療人育成のために

Faculty of Medicine and Health Sciences School of Medicine



(学部)

(大学院)

医学部 医学科

医学系研究科 医学博士課程 医学専攻

医学部 Web サイトで広報誌「山大病院だより」を公開中です。 ➡ <http://www.med.yamaguchi-u.ac.jp/medicine/>

医 学 部 保 健 学 科 × 双樹会

世界水準の教育・研究活動をめざして

看護・医療職に求められる国際的視点

本学は、2015年の創立200周年を契機に、「ダイバーシティ・キャンパス」の創造に向けて、「明日の山口大学ビジョン2015」を策定しました。国籍や性別などさまざまな多様性を認め、共感、共鳴、共奏できるキャンパスをめざしています。

看護・医療の現場では、倫理や人道的な観点から「年齢、皮膚の色、信条、文化、障害や疾病、ジェンダー、性的指向、国籍、政治、人種、社会的地位」などの多様性と人間の尊重が謳われてきました。

国際的に活躍できるリーダーを育成するためには国際交流の体験が重要となるため、医学部保健学科では、2005年から韓国の梨花女子大学、タイのチェンマイ大学とマヒドール大学、オーストラリアのニューイングランド大学の5大学間でAPAHL(Asia-Pacific Alliance of Health Leaders, 通称エイバル)を組織し、輪番で学術・交流フォーラムを開催してきました。

短期交換留学プログラムがスタート！

今年7月から9月にかけて、APAHLの取り組みの一環として、チェンマイ大学との一層の交流を図るため、短期交換留学プログラムが実施されました。この初めてのプログラムの実施に先立ち、保健学科の田中愛子国際交流委員長他教員がチェンマイ大学を訪問し、安全性やお互いの大学の支援体制について協議を行い、派遣先の環境を確認しました。

山口大学からは、8月21日から9月1日までの12日間、看護学専攻の学部学生2名が、8月31日から9月9日までの10日間は検査技術科学専攻の大学院生2名がタイに渡り、チェンマイ大学で学びました。タイでのプログラムは非常に充実しており、平日は大学や病院でタイの医療について学びました。また、休日にはタイ人の友人とさまざまな場所へ出かけ、タイの文化にもたくさん触れることができました。

本学の看護学専攻の学生は、医療・看護の事情の共通点や文化による違いなどを体験を通して学ぶことを目標としました。参加した学生にとって、お互いの国の社会状況や看護教育・医療体制の違いを発見し、それぞれの文化や民族性について理解を深める貴重な体験となりました。参加者の一人は「チェンマイでのタイ人学生との日々の交流は、日常生活から離れてグローバル化の重要性を感じるものでした。将来看護師として海外で活躍したいという意欲をかきたてる体験でした」と語りました。

検査技術科学の学生は、タイ固有の疾患とその検査法、タイの検査システム等を、体験を通して学ぶことを目的としました。参加した学生からは「研究の視野を広げ、技術や研究の専門性を高める貴重な体験となりました」という感想が聞かれました。今後は報告会を行い、広く体験を共有したいと考えています。

チェンマイ大学からは、7月16日から23日までの8日間、看護学部の教員1名と学部学生4名が来日し、8月1日から9月30日までの2ヶ月間は、医療科学学部の大学院生1名が来日し、本学で交流や研究を行いました。

チェンマイ大学の学生は、日本の医学教育や医療現場を見学し、検査の実技や研究方法を学ぶことを目標としました。

受入れ側の保健学科では、公衆衛生看護学、老年看護学、成人看護学、国際看護学の講義や小児看護学の保育園実習の体験プログラムを用意しました。また、山口大学医学部附属病院では、ドクターへりおよび救命救急センターの見学を行い、看護体制をテーマに、看護部とのディスカッションも行いました。プログラムでは萩の産業革命遺産や萩城跡の見学など社会見学も行い、山口の魅力をアピールしました。



山口大学での受入れプログラム

2017年7月16-23日

- 1日目：チェンマイ大学からの短期留学参加者のお迎えとオリエンテーション
- 2日目：萩の世界遺産、秋吉台の見学
- 3日目：歓迎セレモニー、病院見学、公衆衛生学講義への参加および歓迎パーティー
- 4日目：老年看護学講義と演習への参加、成人看護学講義見学、ドクターへりおよび救命救急センター見学
- 5日目：医療英語講義への参加、副学長表敬訪問、吉田キャンパスツアーおよび山口市内観光
- 6日目：保育園実習見学、蒲鉾工場見学、お別れ会
- 7日目：宇部市およびその近郊の社会見学
- 8日目：福岡空港へお見送り



双樹会 Topics

7月9日(日)、小串キャンパス医学部総合研究棟において平成29年度クラス役員連絡会を開催しました。清水昭彦保健学科長から「保健学科の現状と今後」と題し、保健学科の今後のビジョンについてお話を伺いました。また同日、予防医学の第一人者である金城実先生(医学博士/ドクターダイエット代表)による「実践予防医療とメディカルダイエット」に関する講演会を開催しました。より健康であるためのヒントを得ることができたと好評でした。双樹会では、これからも同窓生に母校を懐かしんでいただけるような活動を計画する予定です。また、後輩である学生の皆さんの活動に対する支援にも尽力していきます。



双樹会 会員:約4,900名 設立:2000年

正会員:医学部保健学科と医学系研究科保健学専攻の在学生と卒業生、旧山口県立宇部高等看護学校、山口県立医科大学附属高等看護学校、山口大学医学部附属看護学校、山口県立医科大学附属衛生検査技師学校、山口大学医学部附属臨床検査技師学校、山口大学医療技術短期大学部の卒業生、他 賛助会員、名誉会員

双樹会(そうじゅかい)は、看護学科同窓会「嫩会(わかばかい)」と検査技術科同窓会「真締会(まじめかい)」が統合されて発足し、今年で17年を迎えました。

主な活動

◆会報の発行 ◆会員親睦事業、学生支援事業など ◆双樹会総会の開催 次回総会:平成30年度開催予定

URL:<http://soujyu.hoken.med.yamaguchi-u.ac.jp/>

看護の現場では、チームワークが生命線

医学部附属病院は1,680名のスタッフが支えていますが、そのうち、約6割を占めるのが看護職員や医療職員です。大学病院は高度な医療を提供するところです。最善のケアは強固なチームワークによってはじめて提供することができます。

「看護の日・看護週間」に記念行事を開催

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日は「看護の日」に制定されています。

山口大学附属病院でも、「看護の日・看護週間」にあわせて、5月9日、外来棟で記念行事が行われ、日頃の感謝の意を込めて杉野法広病院長から原田美佐看護部長へ花束が贈られました。

記念行事では、患者さんや来院された方に、医療職員による健康チェックや血圧測定、医療・栄養・福祉の相談、手洗いチェック、ハンドマッサージなどを体験いただきました。

また、「看護の力」をテーマとした病棟ごとの紹介パネルの展示や介護用品の展示、日頃の看護の中で感じたことを詠んだ川柳や写真の展示コーナーもご覧いただきました。

「小さな看護師さんコーナー」では、子供たちが白衣を着て、本学マスコットキャラクターのヤマミイと記念写真を楽しむ姿もみられました。



医学部保健学科

看護・医療技術・研究の国際化へ

Faculty of Medicine and Health Sciences School of Health Sciences



(学部)

医学部

保健学科
・看護学専攻
・検査技術科学専攻

(大学院)

医学系研究科

■博士前期課程 保健学専攻
■博士後期課程 保健学専攻

医学部保健学科 Web サイトで「学生生活」公開中！です。 ➤ http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/?page_id=14007



右から 岡正朗学長、
村岡嗣政山口県知事、奥村直樹JAXA理事長

Aの衛星「だいち2号」はマイクロ波を照射し、地表面から反射し戻ってくる電波の強度から地上を観測します。マイクロ波は雨や雲の影響を受けずに、夜間も観測が可能なため大雨や台風などの災害時に効果を発揮します。また、地球規模での観測が可能であるため、農業や漁業での活用や環境問題への貢献も期待されます。

現在、発災直後の衛星データを解析し、その後直接現場を視察し、解析結果との整合性を確認する取組など、どうすればより短期間で精度の高い解析結果を提供できるか日々検討が重ねられているところです。

今年7月には、山口市で震度6強の地震が発生したとの想定に基づく山口県、JAXAとの3者合同防災訓練が実施され、リモートセンシングの技術を活用した、初動対応の流れについて演習が行われました。衛星データの地域防災への利活用に向けた「山口モデル」の構築は、他自治体への展開も含め、大規模災害が発生した際の対応力強化にも大きく寄与するものと期待されています。

衛星データ活用の最前線 ～JAXAが宇部にやってきた～

大学とJAXA及び山口県による「衛星データ利用・研究の推進に係る連携協力に関する基本協定」を締結

衛星データを活用した最先端の研究を行う拠点として、今年2月常盤キャンパス総合研究棟の最上階に「山口大学応用衛星リモートセンシング研究センター(CRAS)」が設置されました。

また、平成17年度から継続して、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携して衛星データの利活用に関する研究を行ってきた実績が実り、平成28年9月には、JAXA及び山口県と三者による「衛星データ利用・研究の推進に係る連携協力に関する基本協定」が締結されました。

これを受け、今年2月にはJAXAの一部機能が山口県宇部市の山口県産業技術センターに移転し、JAXA西日本衛星防災利用

研究センターとして活動を開始しています。併せて、CRAS内にもJAXAの「解析センター」が置かれ、より緊密な連携体制がとれるようになりました。

山口大学で人工衛星に関する様々な研究が発展してきた背景には、山口県の立地条件もあります。山口県はインド洋上空の衛星も太平洋上空の衛星も見通せ、地上のマイクロ回線との相互干渉が少なく、さらに台風や地震などの自然災害も少ないなどの立地条件を備えた、世界でも最大級の衛星通信所なのです。

衛星リモートセンシングの技術で可能になること

さて衛星リモートセンシングとは、どのような技術なのでしょうか?

人工衛星を用いて宇宙から地球の情報を収集・解析する技術です。広範な地域を短期間に継続的に観測することができます。JAXA



一般社団法人 常盤工業会 Topics

常盤工業会「サークル活動助成金」の学生受給団体からの報告（一例を紹介）

電腦飛行 — 室内飛行ロボットコンテストへの参加とこれからの目標—

私たち「電腦飛行」は、災害救助用の飛行ロボットの実用化を目的とした競技会への出場や、飛行ロボットの製作で習得した技術やものづくりの楽しさを発信していく活動を行っています。コンテストでは、ベストプレゼンテーション賞を2部門でいただき、自動操縦部門では5位の成績を取ることができました。来年度の大会では「マルチコプター部門」へ出場することを目標に、常盤工業会からの助成金を原資にマルチコプターの製作に着手しています。

常盤工業会 会員:約26,500名

会員構成:旧宇部工業高等学校、宇部工業専門学校、工学部および大学院の卒業生・修了生・在学生
地域組織:全国に地域、学科、職域等36の組織を有する



主な活動

- ◆山口大学工学部に対する支援:常盤工業会奨学金の原資、工学部内の施設整備、各学科への教育基盤整備
- ◆山口大学工学部学生の人材育成支援:「常盤賞」授与(学業優秀者・課外活動優秀者を表彰)、課外活動資金支援
- ◆山口県内の工学教育(科学教室等)に対する支援 ◆宇部近郊の留学生に対する支援 ◆常盤工業会誌「常盤」の発行
- ◆地域同窓会の交流 ◆常盤工業会会館の管理・運営(工学部正門前に位置し、会議室、宿泊施設等を賃貸)

URL:<http://park14.wakwak.com/~tokiwa/>

インフラメンテナンスの救世主を育成

高度経済成長期に建設された社会基盤(インフラ)の老朽化が深刻化しており、老朽化したインフラの長寿命化と安全確保のために維持管理(メンテナンス)が注目される時代になっています。

しかし、インフラの維持管理に関する高度な技術を有する技術者は不足しており、技術者の再教育が急務です。

そこで工学部では平成26年度から技術職の社会人を対象とした「社会基盤メンテナンスエキスパート(ME山口)養成講座」を開講し、「新しい技術の学びの場」を提供しています。



翌平成27年、社会ニーズをより的確に反映するため、国、県、市町、民間業界団体、大学で構成する「山口県社会基盤メンテナンス技術者育成協議会」を発足。現在は、養成講座の修了試験合格者に付与する「ME山口」が、鋼橋、コンクリート橋、トンネルのそれぞれ点検と診断、計6部門において「国土交通省登録資格」として認定されています。今年11月には、工学部附属社会基盤マネジメント教育研究センターを立ち上げ、社会人教育と地域連携の充実を図ります。

工学部

こーがくぶは、宝箱！ Faculty of Engineering



工 学 部	機械工学科	工学系 機械工学系専攻			●応用医学コース ●航空宇宙エネルギーコース ●メカノシステムデザインコース
	社会建設工学科	工学系 建設環境系 専攻			●社会建設工学コース ●国際建設技術コース ●建築学コース ●環境システム工学コース
	感性デザイン工学科	工学系 化学系専攻			●物質化学コース ●生命化学コース ●環境化学・化学工学コース
	循環環境工学科	工学系 電気電子情報系専攻			●電子デバイス工学コース ●電子システム工学コース ●知能情報メディア工学コース ●情報システム工学コース
	応用化学科				
	電気電子工学科				
	知能情報工学科				
大学院創成科学研究科(博士前期課程)			工学系 システム・デザイン工学系専攻		
			工学系 環境共生系専攻		
			工学系 物質工学系専攻		
			ライフサイエンス系専攻		

工学部 Web サイトで「卒業生の声」を公開しています。

受験生に向けて、卒業生が「学科の魅力」と「高校生へのメッセージ」を発信！ ➡ <http://www.eng.yamaguchi-u.ac.jp/voices/>

農 学 部 × 農学部同窓会



植物工場～植物と光の関係を探る～

現在テレビで放送中の中国電力のシリーズCM「この街の未来を、愛する人がいる。」※をご覧になられた方も多いのではないでしょうか。このCMの「vol.4 未来を見つめて」で紹介されているのが、農学部の執行正義(しぎょう まさよし)教授による植物工場における新たな栽培法の研究です。

2色のLEDを使用した野菜の高速栽培

未来の農業ともいわれる植物工場は、温度や湿度、光、養分、二酸化炭素など、農作物の生育に必要な環境条件を、施設内で人工制御することで、年間を通じて計画的な生産・出荷を可能にするシステムです。この栽培方法は、天候や害虫による影響を受けずに、形や重さ、品質、規格を一定にできる、栄養成分をコントロールできるなど、多くのメリットが挙げられます。無農薬栽培が可能なため、農作物を水で洗う必要もほとんどありません。また、立地を選ばず、軽作業中心の労働であるため、地域雇用の拡大も

期待できます。

しかし、農作物の販売価格に対して、導入コストや維持・管理コストが高いことや、従来の栽培法よりも栽培効率が劣ることなどが、導入拡大の足かせとなっていました。

こうした課題を解決するのが、執行教授と学生らの研究グループが、企業との共同研究により開発した野菜の高速栽培法です。

日本初の画期的な技術として特許を取得

植物の光合成で吸収されるのは、光の3原色の赤色、緑色、青色のうち、赤色と青色のみ。従来の植物工場で使われている蛍光灯の光には、赤色と青色の両方の光が含まれています。近年の研究では、植物は赤色の光によって養分を蓄え、青色の光で成長を促進させることができます。

これまで、植物に光を24時間当てるべくすると成長速度が下がるため、定期的に暗くして植物に一定の睡眠時間を与える必要があると考えられてきました。そこで、執行教授の

研究室では、レタスに赤色と青色のLEDを同時に12時間当てる、その後12時間暗くするという実験を行っていました。ところが、ある日、学生が間違えて、赤色と青色の光を交互に12時間ずつ当てるようタイマーを設定したところ、通常よりも早いスピードで成長するという驚きの結果を得ることができました。

2色のLEDを使用して、野菜の力を引き出すこの栽培法は、従来の倍の早さで育てられる上、蛍光灯に比べて電気代は半分程度とコストダウンも図れることから、植物工場における新たな栽培法として注目を集めています。

執行教授の名字を取って「SHIGYO法」と名付けられたこの栽培法は、従来の常識を覆す革新的な技術として、平成27年7月に周辺特許を含め15件の特許を取得しました。現在、規模の大小合わせて全国35箇所の植物工場で導入され、海外展開も視野に入れられています。今後、SHIGYO法のメカニズムが解明できれば、さらに高い生産性を実現できることが期待されます。



※中国電力CM

「この街の未来を、愛する人がいる。」特設サイト
<http://www.energia.co.jp/konomachi/index.html>

農学部同窓会 Topics

農学部同窓会長賞授与式

平成29年3月22日、平成28年度農学部同窓会長賞授与式が開催されました。この賞は学修に励み成績優秀な学生を称えるため、同窓会の支援により創設されたもので、毎年、農学部の各学科並びに研究科から選出された成績優秀者が表彰されます。8名の受賞者へは、武永清實農学部同窓会会长から記念品(図書カード)が贈呈され、受賞した学生からは同窓会への感謝の気持ちが述べられました。この学生たちも卒業し社会に巣立って行きましたが、同窓会との架け橋として、活躍を見守って行きたいものです。



農学部同窓会 会員:約6,800名 設立:1959年 全国に19地区の支部を組織

正会員:農学部と農学研究科、旧山口県獣医畜産専門学校と連合獣医学研究科の卒業生・修了生、 特別会員:旧・現教員、準会員:在学生

主な活動

◆同窓会会報の発行 ◆同窓会親睦補助事業 ◆同窓会長賞の表彰 ◆農学部同窓会総会の開催 次回開催は、2020年の予定です。

本学オリジナルスイーツ「Scent」が 「大学は美味しい!!フェア」に初出展！



5月18日から23日まで、東京新宿高島屋で開催された第10回「大学は美味しい!!フェア」※に出展された本学オリジナルスイーツ「Scent(セント)」は、「大学はあまい!!」の企画テーマにマッチし、ひときわ注目を集めました。夏みかんとゆずの香りが特徴のこのスイーツは、赤壁善彦教授の香りの研究成果を活用したもので、山口大学の学生に気軽に食べもらえる風味豊かなスイーツを開発したいとの思いから生まれました。フェア期間中は、赤壁善彦教授による「香りによる地方創生」と題した講演も行われ、多くの本学卒業生にも来訪いただきました。ありがとうございました。

「Scent(セント)」は良い香り。マカロン・ギモーヴ・パウンドケーキにそれぞれ山口県の特産品の「夏みかん」と「ゆず」の風味が香ります。



※全国の大学の「食に関する研究成果」を一同に集めた「食の学園祭」と位置づけられる取り組みで、新宿高島屋で人気の催しとなっています。

農学部

地球の未来と対話する

Faculty of Agriculture



(学部)

農学部

■生物資源環境科学科
■生物機能科学科

(大学院)

創生科学研究所

■博士前期課程 農学系専攻

■博士後期課程 ライフサイエンス系専攻

農学部 Web サイトに、9月4日「卒業生の声」ページができました。

受験生に向けて、卒業生が「学科の魅力」と「高校生へのメッセージ」を発信！ ➤ <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/koe.html>

共同獣医学部

VetJapan South

山口大学と鹿児島大学獣医学の 共同教育課程



平成24年度に開設した共同獣医学部は、日本で初めて複数の大学が共同で設置した学部です。山口大学と鹿児島大学が共同で学部運営を行うことにより、双方の大学が有する卓越した教育や研究を共有し、単一の大学では達成できない多彩な教育カリキュラムの提供が可能になりました。この共同教育課程を「VetJapan South」と称しています。

獣医学分野では、産業動物(家畜)や野生動物、伴侶動物(ペット)の保護や治療、近年では、新興の人獣共通感染症への対応まで幅広い領域への貢献が求められるようになっています。

共同獣医学部では、山口大学の学生と鹿児島大学の学生が、遠隔授業システムを用いて同じカリキュラムを受講します。それぞれの大学から移動することなく、相手大学の講義を臨場感を持って受講することができるというメリットがあります。高学年で行われる実習は一堂に会し、山口大学では「高度感染症実習」を鹿児島大学では「産業動物診断治療学実習」が行われます。



相互に刺激しあい学べる 魅力的な学習環境

萩野 詩季
共同獣医学部 獣医学科
6年〈鳥取県出身〉

鹿児島大学と共に実施される授業は、大型ディスプレイを介した衛星通信授業です。双方の強みを活かした幅広い授業が受けられ、試験も同時に実施されるなど、切磋琢磨できることは大きな特長で魅力でもあります。大学を行き来しての授業や実習では、画面で知っていた相手と語り合えることが楽しみであり、貴重な経験です。また、日本獣医学生協会の活動の一環で行った、日本と世界の獣医学生をつなぐイベントの企画や、同じアルバイト先の留学生との国際交流は、世界の様々な考えに触れ、自分がどのような獣医師になりたいのかを考える大切な経験になっています。

獣医学共用試験全員合格

近年の獣医学教育改善により、臨床の現場において参加型臨床実習を行うには、「獣医学共用試験※」に合格しなければなりません。学生は、この共用試験に合格すると、Student Doctorとしての認定証が授与されます。

今年度、本学共同獣医学部の5年生は、第1回となる共用試験に全員が合格したことから、今後の臨床実習に無事参加できる資格を得たところです。合格に際しては、Student Doctorとしての自覚と患者様に対する責任を促すことを目的として、本年9月に「白衣着衣式」を挙行したところです。

※「獣医学共用試験」とは、vetCBT（獣医学知識を問う試験）とvetOSCE（基本的診療技能・態度・手技を問う試験）から構成され、参加型臨床実習に参加する学生の質を問う試験です。



平成30年4月設置 大学院共同獣医学研究科 博士課程 学生募集開始

平成30年3月には、本学部の第1期生が6年間の修業年限を終え卒業して行きます。そのなかには、さらに世界最先端の研究を進め、獣医学分野の研究者や専門家を目指す学生や先端的な知識と技術を有する臨床獣医療人を目指す学生がいます。

のことから、山口大学と鹿児島大学は、新たな研究科として「共同獣医学研究科」の設置を決め、文部科学省から平成30年4月のスタートが認められたところです。これを受けて、本学では9月1日から学生募集を開始しています。

また、山口大学と鹿児島大学では、共同教育課程「VetJapan South」を学部から大学院博士課程までの概念に広げ、一つの教育組織として EAEVE（欧洲獣医学教育機関協会）による国際認証への申請の準備を進めています。

山口で欧米水準の獣医学教育を!

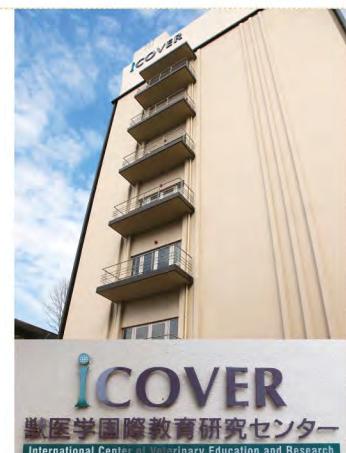
獣医学国際教育研究センター

(iCOVER : International Center Of Veterinary Education and Research)

獣医学国際教育研究センター(通称:アイカバー)は、EAEVE(欧洲獣医学教育機関協会)の認証基準を満たす研究施設として平成27年1月に竣工しました。

現在、施設内の整備が順次行われ、EAEVEの認証を受けるための最終調整が進められています。

7階建ての建物の1階から4階は、共同獣医学部の学生が実習を行う60人規模の実習室、5階から7階は動物福祉に配慮したマウス・ラット専用の実験動物飼育管理施設です。



1F 形態学系実習室



バーチャル顕微鏡を備え60人規模のICTを用いた形態学実習教育の実施が可能です。

3F 感染症学系実習室



8台の安全キャビネット整備などBSL2に対応し、60人規模で参加型感染症学実習の実施が可能です。

4F 高度感染症実習室



2つのBSL3対応実験室を備え、獣医師に必要な高度感染症に対応した教育の実施が可能です。

総合病性鑑定研究施設 (iPaDL : Intergrated Pathology and Diagnosis Lab)

今年3月、総合病性鑑定研究施設(通称アイパドル)が竣工しました。

獣医学の分野では、病気や感染のメカニズムが未だよくわかつていない事象が多く、検体を受け入れ病理解剖を行うことで、治療法や予防法の開発につなげることが必要とされています。この施設の完成により、病性鑑定も可能となりました。



共同獣医学部

獣医学を「共理」「共育」「共道」する
Joint Faculty of Vererinary Medicine



(学部)

- 共同獣医学部 獣医学科
· 生体機能学講座
· 病態制御学講座
· 臨床獣医学講座

(大学院博士課程)

連合獣医学研究科 獣医学専攻 平成30年度は鳥取大学配属のみ募集

↓
(平成30年4月設置)

共同獣医学研究科

獣医学専攻

· 獣医学コース · 獣医専修コース

動物医療センター

年間の診療件数は約3000頭。西日本の拠点病院のひとつです。平成28年5月にリニアック(放射線治療装置)が導入され、伴侶動物(ペット)のさらに高度な治療が行われています。また、平成28年10月から犬、猫を対象とした夜間救急診療を開始しておりましたが、今年4月からは、牛、馬を対象とした夜間救急診療も開始しています。

▶ <http://ds22n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yuamec1/>

国際総合科学部

新しい価値創造へのチャレンジ

Venus、Jupiter、Saturn…

さてこれらは何の名前でしょうか？

平成27年4月、山口大学が創基200周年を迎えた記念すべき年に、本学9番目の学部としてスタートしたのが国際総合科学部です。本学部は、幅広い知識とその活用能力、コミュニケーション能力と共に働き、そしてデザイン科学に基づく課題解決能力を有するグローバル人材を育成することを目的としています。

平成28年9月には、教育活動の中心となる新しい機能を持つ施設として、ワークショップスタジオやメディアスタジオ、ファブリケーションスタジオなどを備えた国際総合科学部本館が完成しました。この館内の教室や学生ラウンジにつけられた愛称が、VenusやJupiterなどです。この愛称には、1期生の田口佳那子さんのアイデアが採用されました。



教育理念



幅広い知識とその活用能力

思想・文化や政治・経済また科学技術リテラシーなど幅広い知識を身に付け、それらを活用する能力を身に付けます。

コミュニケーション能力と共に働き力

日本語・英語をツールとした優れたコミュニケーション能力を持ち、様々な文化背景を持つ人々と理解しあって、共に活躍することができる能力を身に付けます。

デザインを通じた課題解決能力

山口大学の教育理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする」を「観察・分析・価値提案・設計・実装・評価」というデザインプロセスの中で実践します。

平成28年 10月

交換留学生との Welcome Party を開催

国際総合科学部の学生は、2年生の後期から1年間の海外留学に出発します。また、彼らが海外で学ぶ期間、海外からの交換留学生を受け入れることで、他学年の学生は、日本に居ながらにして各国の異文化を体感することになります。

平成28年10月、初めての交換留学生70名が到着しました。国際総合科学部学生有志により、吉田キャンパスの学生食堂で開催されたWelcome Partyは、参加者150名を数え、岡正朗学長による歓迎挨拶に続き、パディーの日本人学生が、巨大書道やエア和太鼓のパフォーマンスで留学生をもてなしました。また、中国・台湾からの留学生による歌声も披露され、会場は大いに盛り上がりいました。

Welcome Partyを企画した1年生の林高輝さん(当時)は、「日本に来たばかりで不安を感じている留学生たちとの距離を縮められるよう企画した。これからも、いろいろな行事を行い、交流を図って行きたい」と語りました。



平成28年10月

ハロウィーンイベントを企画！

Welcome Party後の10月下旬、学生有志主催によるハロウィーンイベントが開催されました。日本人学生と留学生の交流、地域の方とのふれあいを目的に企画されたイベントには、留学生含む約30名の学生や教職員が参加しました。

参加者は、ウォーリーやマリオ、ハリー・ポッターといった趣向を凝らした衣装を着て、時折ゴミ拾いも行なながら山大通りを練り歩き、地域の方にキャンディーを手渡しました。

留学生もこのコスチュームに興味深々。皆で記念写真を撮り、とても楽しんでいる様子でした。その後、教室で行われた仮装大会やbingo大会には、80名以上の学生や教職員が参加。会場は大いに盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。



平成29年2月

プロジェクト型 課題解決研究の方向性

国際総合科学部では、4年次の1年間、従来の「卒業研究」に代わり、「プロジェクト型課題解決研究(PBL)」を行います。PBLでは、地域社会が抱える諸課題をテーマに、学生が企業や地方自治体、NPO法人などとプロジェクトを立ち上げ、実施することで、実践的な課題解決能力を持つ人材の育成を図ります。

今年2月には、PBLの在り方や方向性を考えることを目的とした「山口で何をやらかすの？－国際総合科学部プロジェクト型課題解決研究シンポジウム－」が開催され、企業や自治体関係者、高校生などの学外者を含む参加者およそ200名が参加しました。

PBLの本格始動は来年度からですが、既にいくつかのPBLが先行実施されており、同シンポジウムでは、先行事例の紹介やパネルディスカッションが行われました。

先行事例の一つである「エイベックス知的財産プロジェクト」では、コンテンツ産業における直近の事例を挙げ、実際に企業体験講座に参加した2年生の東 優太さん（当時）が、講座に参加して見えてきた、知的財産にかかる課題と今後の展開について発表を行いました。また、「美祢市台湾プロジェクト」では、小川 仁志准教授が、美祢市と台湾の観光振興や特産品の販路拡大を目指す交流をサポートする取り組みについて紹介しました。

パネルディスカッションには、PBL参加企業として、株式会社全日本空輸(ANA)山口支店長、株式会社レノファ山口 経営企画室長、山口県東京営業本部支援アドバイザーを迎えて、パネラーから「気づきの天才」になることが大切とのアドバイスがあり、テンポ良く進むトークに参加者は聞き入っていました。



国際総合科学部

あらゆる境界を越えて！ Across the borders!

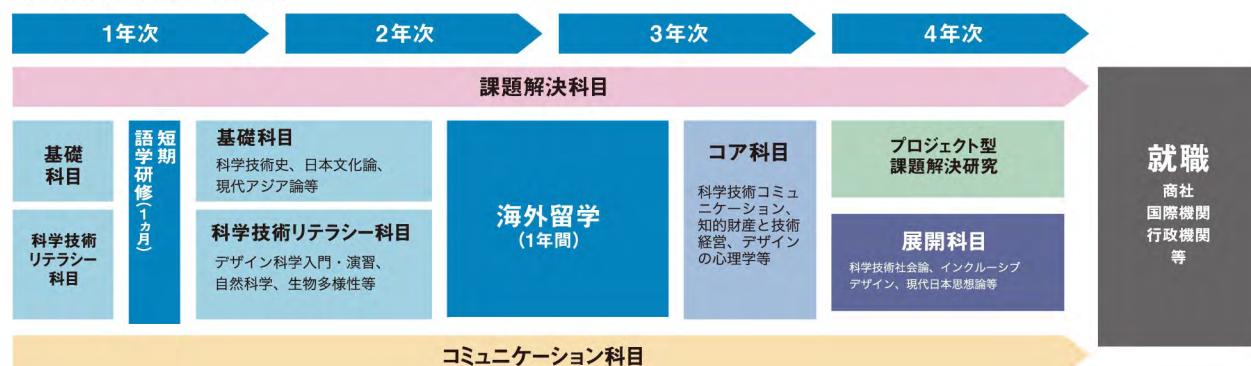
Faculty of Global and Science Studies



高いコミュニケーション能力と課題解決能力を総合的に育成 —TOEIC730はGlobal社会へのパスポート—

国際総合科学部・国際総合科学科

国際総合科学部カリキュラム概念図



詳しくは、国際総合科学部 Web サイトをご覧ください。 ➡ <http://gss.yamaguchi-u.ac.jp/>

大学院 東アジア研究科

東アジアで活躍するリーダー育成

東アジア研究科は、人文・社会科学系の大学院博士課程として平成13年度に創設されました。経済・社会・文化・教育など幅広い分野の研究が行われています。現在、在学生56名中、8割を超える48名が外国人留学生というグローバルな大学院博士課程です。

留学生の出身国は中国からの留学生が35名と多数を占め、その他、インドネシア、バングラデシュ、ベトナム、アフガニスタン、ウクライナ、ハンガリーとなっています。※

9月29日、秋季の山口大学学位記授与式が挙行され、修了生が巣立って行きました。

留学生は修了後、東アジアや日本の大学の教員として研究者の道を歩んだり、行政官や公務員として活躍します。学位記授与式後の祝賀会は、学生食堂に日本の秋の収穫祭をイメージした室が施され、秋野菜を中心に、めで鯛（魚料理）、チキンなどハラルフードのオードブルが並びました。家族での出席者の姿が目立ち、学位取得までの苦労を分かち合った恩師や友人たちと歓談を楽しみ、健闘を称えあい、名残り惜しいひと時を過ごしました。

同日、秋季の山口大学大学院入学式も挙行され、これから本学で学位取得を目指す学生の入学が許可されました。

※研究科の在学生数、出身国は平成29年5月1日のものです。



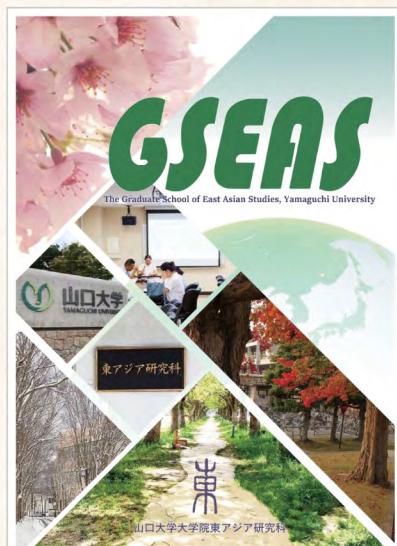
東アジア研究科のできたてパンフレット

東アジアのパンフレットが完成しました。
日英併記のパンフレットです。

授業料、奨学金制度、生活費、日本語教育の支援、学生食堂や宿舎の情報など、留学生向けの情報が充実しています。

留学生用宿舎として、西日本電信電話(株)の旧社宅を改修し平成28年夏に開所した「YU国際シェアハウス」も紹介されています。

東アジア研究科
博士後期課程 東アジア専攻



社会人を対象とした土曜日中心の 専門職大学院

技術経営（MOT）の国内中心拠点として、
教育コアカリキュラムの改定を主導

本学が定義し育成する「技術経営者」とは、社会や企業・組織における様々な問題に対し、技術と経営の二つの視点から取り組み、創造的な成果を生み出していく能力を持つ次世代 Leader、としています。そのため、技術と経営に関する高度かつ最新の知識・スキルを、効果的な教育手法により習得し続けられるような体制を整備しています。

本学は技術経営系専門職大学院協議会（MOT協議会）に加盟し、教育内容の質保証のため、学習内容の標準化を先導してきました。同加盟校では、これまで平成22年度版MOT教育コアカリキュラムを科目編成、学習内容の標準的な枠組みとしてきました。

この度、社会・経済および科学技術の迅速な変化に呼応し、本学が中心となり、文部科学省「平成28年度先導的経営人材養成機能強化促進委託事業」の一環として「コアカリキュラム策定に関する調査研究」を実施しました。ここでは、産業界や関係機関から寄せられた意見を踏まえながら、改定版コアカリキュラム（平成28年度版）をまとめました。

平成17年の設立以来、「技術経営者」の輩出により、地域産業界の発展に貢献してきた本研究科ですが、広島教室、福岡教室での社会人教育に加え、平成25年度からは宇部教室において秋入学、全科目英語による教育を開始しています。

平成28年度、ASEANを中心とするアジア各国の有力大学とのプラットフォーム「アジアMOTコンソーシアム」を設立し、毎年国内外で国際シンポジウム「International Symposium for Asian MOT Education (ISAME)」を開催するなど、アジアにおけるMOT教育の普及と質の向上に乗り出しています。

また、マレーシア工科大学マレーシア日本国際工学院（MJIIT）内には、共同研究室、国際連携知財講座を開設しました。JICAの円借款事業により世界最高水準のデータインフラが導入されたMJIITに本学が共同参画することで、アジア圏を中心に知的財産を活用したビジネス研究の拠点形成を目指しています。さらに、インドネシアの名門校であるバンدون工科大学内にも、アジア新興国におけるビジネス研究の拠点として国際連携講座が開設されました。

このような国際展開は国内の社会人教育でも役立っており、グローバル教育のニーズに応え、希望者をマレーシアやインドネシアの海外短期研修へ派遣するなど、充実した教育プログラムを実施しています。



技経会

設立：2007年

正会員：技術経営研究科の修了生、 特別会員：旧・現教員、準会員：在学生

主な活動内容

◆会報発行 ◆会員親睦事業、母校支援事業 ◆技経会総会の開催

技術経営研究科 専門職学位課程
技術経営専攻

Graduate school of Innovation
and Technology
Management

平成30年4月入学
社会人大学院生募集中！





山口大学医学部附属病院 再開発整備事業

Your Health, Our Wish —あなたのために—



2019年6月 新病棟開院予定

地域医療の安心・安全のため、大規模災害時の医療提供体制を強化するとともに、山口県の中核医療機関としてさらなる充実を目指し、平成26年度から、新病棟の建設を含む病院全体の再開発整備計画をスタートさせました。



新病棟新設工事 進捗状況

4月からの半年間で、第1病棟側（赤枠部分）では8階床部分、第2病棟側（黄枠部分）では5階床部分まで骨組みが上がってきています。

9月上旬には、林芳正文部科学大臣に工事の進捗状況を視察いただきました。



林大臣のご視察の様子

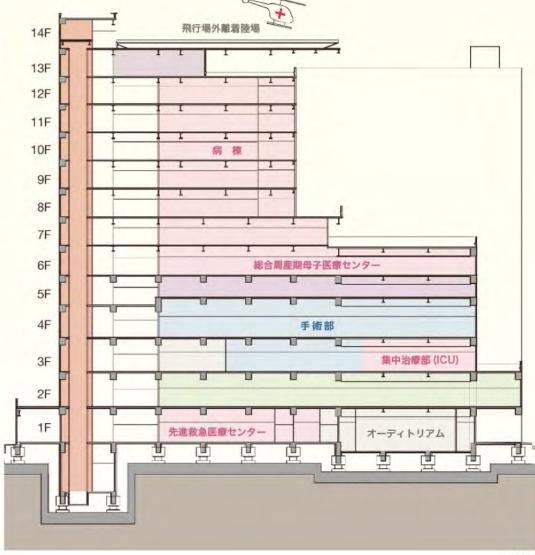


H29.3.25 工事現場



H29.9.30 工事現場

新病棟の
主な機能



RF



12F～7F



6F



4F

屋上ヘリポート（飛行場外離着陸場）

大規模災害時の物資輸送対応用とする他、県内のドクターヘリの運用強化を図ります。

病棟

増加傾向にある呼吸器系の疾患に対応するため、呼吸器・感染症内科の病床を増床します。

総合周産期母子医療センター

県内のハイリスクな妊娠婦や新生児の受入体制強化のため、NICU(新生児集中治療室)の後方病床であるGCU(継続保育室)を増床します。



3F



1F

集中治療部（ICU）

集中治療部を増床し、術後の患者受入体制を強化します。

大講義室（オーディトリウム）

オーディトリウムは、大規模災害時には臨時の治療スペースとして活用できる機能を有します。

再開発整備事業への アクセス

山口大学 再開発

検索



<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業

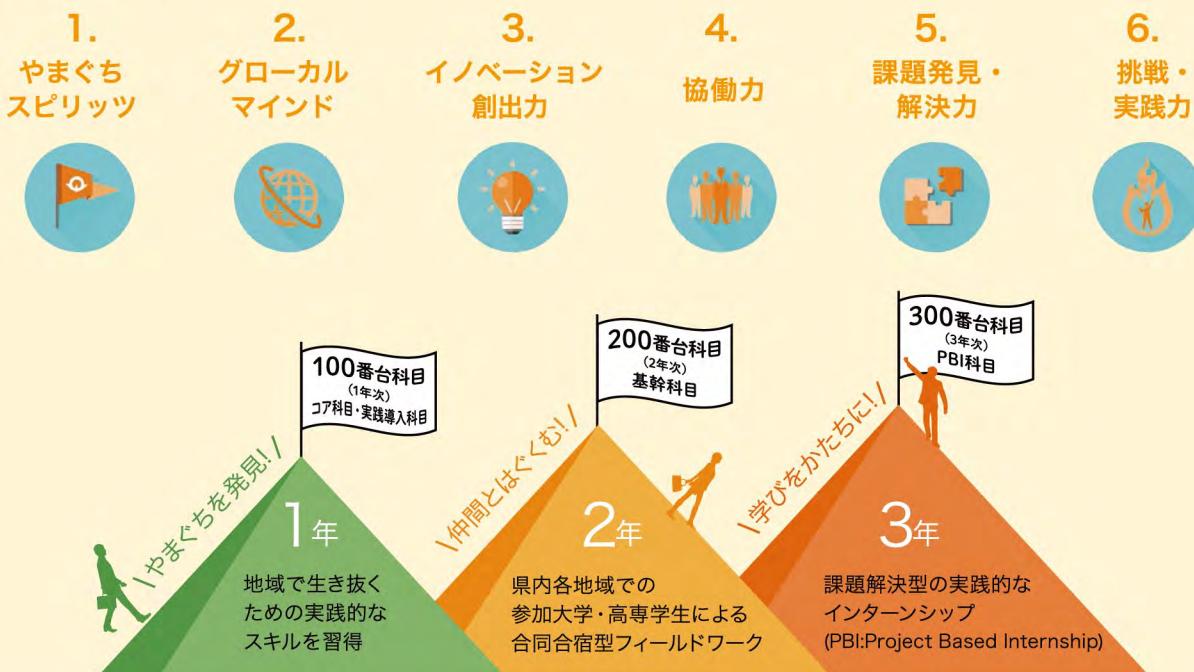
全国最大規模
159機関
が連携

“オールやまぐち”で若者の山口での活躍を応援中！！

平成27年度からスタートしたCOC+は、若者の地元定着や企業が求める人材育成等を通じ、地方の人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、地方創生につなげることを目的とした事業です。

山口大学をはじめ県内の高等教育機関12、地方自治体20、民間企業118、経済団体等9団体が参画し、“オールやまぐち”で若者の活躍を応援しています。

COC+では、やまぐち未来創生リーダー(Yamaguchi Frontier Leader:YFL)を育成するための教育プログラムを実施し、地域が求める6つの力を育成します。



100番台科目	200番台科目	300番台科目
<p>県知事、銀行頭取、企業経営者ら各界のプロフェッショナルを招き、やまぐちの行政・経済を学びます。</p> <p>(村岡嗣政山口県知事による講義)</p>	<p>合同合宿など多様な学びのフィールドで、サービス産業や地域資源の活用、起業について学びます。</p> <p>(プレゼンテーションの様子)</p>	<p>地域社会が抱える課題や企業が直面する課題を自ら発見し、解決する実践的インターンシップを行います。</p> <p>(課題解決に取り組む様子)</p>
<p>参加学生の声</p> <p>年間売上が100億円を超える企業が山口県に80社以上もあるなんて知らなかったです。</p>	<p>参加学生の声</p> <p>地域の方の話を聞き、収集した情報を基にワークショップを行い、学生目線で提案を発表しました。</p>	<p>参加学生の声</p> <p>アクティビティを通して山口県の魅力を肌で感じる今までにないインターンシップでした。</p>

やまぐちの魅力！やまぐちで働くメリット！

- 高い実績を誇り世界に通用する企業がたくさんあります。
- 同程度の規模の都市が分散していて、それぞれに独自の自然、文化、産業があり、将来の生活への多彩な選択が可能です。
- 地震が少なく、自然豊かで、伸び伸びした生活・子育てがしやすいのも特徴です。
- 大都市圏と比較すると、生活コスト、通勤時間いずれも約半分で、ゆとりのある生活を実感できます。

やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業へのアクセス

YFL COC+

検索

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/coc-plus.html>



What's New

山口大学のこの1年【主な動き】

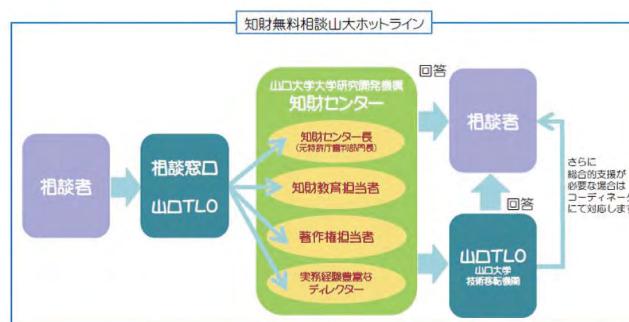
10月 2016

知財関連のお悩み無料相談窓口 「山大ホットライン」を開設

大学を始めとする教育機関関係者や行政担当者、山口県内の中小企業者、県内での起業計画がある方を対象に知的財産・特許等に関する悩みや疑問にお答えする「山大ホットライン」を開設しました。

文部科学省認定「知的財産教育の教育関係共同利用拠点事業」の一環として実施します。

(有)山口ティー・エル・オー TEL : 0836-22-9768
E-mail tlojim@yamaguchi-u.ac.jp



全学「教職センター」を設置

「教職センター」は、全学の教職課程の管理・運営に関する組織的指導体制を確立すること、学内外の教育関連機関等との連携・協働を強化しながら、教員養成および現職教員研修の質の向上を図ることを目的としています。教職センターの看板が教育学部玄関に上掲されました。

医学部附属病院院内保育所「たんぽぽ保育園」 の新設開所

子育てと仕事の両立支援を強化するため、定員を90名に拡大し、新たに夜間保育および病児保育にも対応する保育所として運営を開始しました。

園内外の壁などには萩市の画家 田村覚志氏が手がけた動物やたんぽぽをモチーフにした線描画があしらわれており、可愛らしいおとぎ話のような雰囲気となっています。



イノベーション道場「志」のオープニングセレモニーを開催

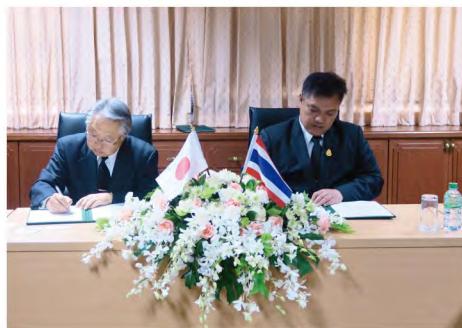
イノベーション人材育成のためのアイデアを創造する実践教育の場として、常盤キャンパスにイノベーション道場「志」が整備されました。学生と優れた起業家・支援者・産業人との接点・ネットワークを提供することで、起業家マインドを持つ人材の育成を推進していきます。

11
月

2016

山口大学バンコク国際連携 オフィスを開所

本学が重点拠点国と位置付けるタイにおいて、古くからの協定校であるカセサート大学理学部内にオフィスを開所しました。開所に先立ちオフィス設置に関する協定書の調印式が行われ、ジョイント・ディグリー・プログラムの実現など、今後の交流をますます深めていこうとの機運が高まりました。



1
月

2017

遺伝子解析キットの 事業化を発表

山口大学と東洋鋼鉄株式会社が共同研究開発した遺伝子解析キットが国の承認を経て、国内での製造販売が可能となりました。本学、東洋鋼鉄株式会社、株式会社エイアンドティー、山口県の合同記者会見を行いました。



2
月

2017

文部科学省エントランス企画展示 「中高温微生物研究の紹介」

山口大学中高温微生物研究センターにおける「中高温微生物学」分野の研究開発の重要性を広く社会にお知らせするため、文部科学省において2か月間の企画展示を行いました。また期間中セミナーも開催しました。

- パネル: 中高温微生物研究センターの発酵微生物・環境微生物・病原微生物の3部門を紹介
- 模型展示: ダニ(吸血前と吸血後)、カ・ウイルスの3D模型、LED光源下での藻類培養
- 動画: ダニ(吸血前と吸血後)、カ・ウイルスの動画・写真、高温下での常温性酵母と耐熱性酵母の増殖と発酵を比較した動画



3
月

2017

平成28年度山口大学学位記授与式、 大学院修了式及び卒業式を挙行

大学院生(博士課程)74名に博士の学位記を授与、学部生1,889名、大学院生(博士課程を除く)504名に卒業証書・学位記を授与しました。



山口大学秋吉台アカデミックセンターを開所

本学と美祢市が締結した包括的連携・協力に関する協定に基づき、教育、研究活動の拠点として同センターが設置されました。美祢市のジオパーク活動や産学公連携の推進、美祢地域の住民と大学、さらには観光客の交流の場として地域活性化のための活用が期待されます。

4月 2017

山口大学ダイバーシティ推進室の設置

創基200周年を経て2025年に向けて「ダイバーシティ・キャンパス」を目指す本学。性別、国籍、年齢等の多様性を積極的に高め、各自の個性と能力が最大限に発揮できるような環境の整備と充実に取り組んでおり、同室の活動が期待されます。



平成29年度 山口大学大学院入学式および山口大学入学式を挙行

岡 正朗学長から学部生2,027名、大学院生615名に入学が許可されました。式典では、「皆さん的能力を最大限に引き出すには、皆さん自身の志が最も重要。さらなる高みを目指して努力してほしい。」と激励の言葉が贈られました。

クラウドファンディングを活用する初の試み

学術系クラウドファンディングサイト「academist」による研究資金の募集に、大学院創成科学研究科の藤島政博教授が挑戦しました。ゾウリムシを用いて細胞の進化の原動力となる現象(細胞内共生)の成立機構を明らかにする研究には多くの支援が集まり、目標額を達成しました。



5月 2017

ワンコイン朝食でスタートアップ

山口大学ではゴールデンウイーク明けから、大学生活協同組合、学校福祉協会と連携して、新入生を対象に学生生活を支援する取組「ワンコイン(10・50・100)朝食事業」を行いました。

朝食を摂ることで健康管理や生活習慣を改善し、学業に専念できる生活リズムを整えることを目的としています。実施期間中、学生たちからは好評の声が聞かれました。定価との差額は、山口大学と山口大学同窓会が支援しました。



6月 2017

ベトナムからハノイキッズクラブが来学

ハノイキッズクラブは、留学生が卒業後ベトナムに帰国しハノイで設立したもので、クラブの子どもたちは国際交流ひらかわの風の会(山口市)とスカイブを利用して日本語学習を行っています。キッズクラブの子どもたちにも将来山口大学への留学を目指してほしいという願いから、本学への訪問が実現しました。



7 2017
月

洞穴研究会の学生らが「秋芳洞」を再測量 ～総延長 全国3位へ～

山口大学洞穴研究会、美祢市立秋吉台科学博物館および日本洞窟学会企画運営委員会などの合同調査により、国指定特別天然記念物の鍾乳洞「秋芳洞（山口県美祢市秋芳町秋吉）」で新空間が発見されました。18年ぶりに発見された新空間は、新たな学説の可能性を示唆するものであり、学術的観点からも意義深い発見です。また、再測量により秋芳洞の総延長距離は、全国3位となりました。



夏季学童保育「ヤマミィ学級」の開設

教職員のワークライフバランスを推進する活動の一環として、小学校の夏休み期間中、学内に夏季学童保育「ヤマミィ学級」が開設されました。学内学童保育の開設も3年目となり、教員の専門性を活かしたプログラムや学生サークルによるプログラムなど、多彩な内容となっています。

8 2017
月

「ハラール・フード推奨メニュー」 お披露目会を開催

吉田キャンパス第1学生食堂「ボーノ」において、「ハラール・フード推奨メニュー」のお披露目会が開催されました。後期の授業開始日から、吉田キャンパスと常盤キャンパスの学生食堂で本格的な提供を開始し、留学生が生活しやすい環境づくりを推進します。なお、礼拝場所についても、様々な宗教の学生が利用できるよう、国際交流会館の談話室を整備しました。



岡学長が南米（ブラジル、ペルー）を訪問、 国際交流協定を締結

ブラジル山口県人会及びペルー山口県人協会90周年記念式典への出席、並びに交流協定締結のため、岡正朗学長が南米を訪問しました。本学では、ブラジル、ペルーから、昭和45年以降63名の山口県費留学生の受入れを行ってきました。交流協定締結により相互交流の進展が期待されます。

9 2017
月

岡学長がロシアを訪問し、 国際交流協定を締結

東方経済フォーラム2017の会場で行われた、ロシア国立農業大学との交流協定調印式へ岡正朗学長が出席しました。今年度から農林水産省の委託事業により同大学との共同研究がスタートします。今後、ライフサイエンス系の様々な分野における研究連携が期待されます。



林芳正文部科学大臣が山口大学などを視察

常盤キャンパスの研究室、小串キャンパスの医学部附属病院新病棟の建設工事の現場等を視察いただきました。林大臣は「未来に希望が持てる最先端の研究が行われていることを心強く感じた。こうした地方大学の努力が地方創生につながる。」と期待を示されました。

山口大学基金

「山口大学基金」は、創基 200 周年記念募金を基に創設し、学生支援に特化した事業を行っています。本学の学生が安心して勉学に打ち込めるよう経済的支援を行い、グローバルマインドを身につけ、地域、そして世界で活躍する「未来の長州ファイブ」を育成してまいります。
皆様からのご支援をよろしくお願ひいたします。

これまでの寄附金額

5年間で、231社の法人、4,619人の皆様から、**517,259,204円**（平成29年10月1日現在）のご寄付を頂戴いたしました。

学生支援

平成28年度から支援を開始しました!!

七村奨学金(給付型奨学金)の給付

20名
1,890万円

家計の急変等により授業料の納付が困難となった学生への支援

2名
401,850円

海外留学支援
「はばたこう！山口から世界へ」

184名
約1,782万円

私費外国人留学生(大学院生)への奨学金の給付

20名
1,080万円

この他、大会等で優秀な成績を収めた課外活動団体への支援を行っています。

税法上の優遇措置等

個人からのご寄付：山口大学基金（学生の修学支援）へのご寄附（※1）は、確定申告により最大で**寄附額の約4割+住民税の約1割**（※2）が税額控除されます。

※1 控除の対象となる寄附金額には上限があります。

※2 住民税については、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で山口大学を「寄附金税額控除対象法人」として指定している場合に対象となります。

（例）山口市在住、課税所得金額が500万円の方の場合



法人等からのご寄付：寄附金の全額を損金処理できます。

基金に関するお問合せ先

山口大学基金事務局 〒753-8511 山口市吉田 1677-1
TEL : 083-933-5622/5631 FAX : 083-933-5624
E-mail : kikin@yamaguchi-u.ac.jp



<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/kikin.html>

学生の声

七村奨学金

平成28年度入学 理学部

奨学生に選んでいただき非常に感謝しています。

授与式に参加して、七村奨学金の奨学生であるということを改めて認識しました。将来に期待されるということは一方で、責任を負っているのだと感じています。学業に励むことはもちろんですが、それと同時に学生生活においても他の模範となるよう努めなければと思います。現在入っているサークル活動では知識を身に付けるだけでなく、先輩や他学部の人達との会話により友達の輪が広がりコミュニケーション能力も高まります。このようにサークル活動や学業に励むことができるには、七村奨学金のおかげです。本当にありがとうございました。

海外留学支援

渡航先：ロシア

医学部 医学科4年 円谷康佑

私はIFMSA(国際医学生連盟)の交換留学プログラムでロシアのOmsk国立医科大学の癌センターにおいて約3週間、実習しました。このうち1週間はSamaraで基本的外科手技を学ぶワークショップに参加しました。Omskでは甲状腺摘出術や精巣切除術など様々な癌の外科手術を見学しました。全ての手術でロシア人医学生が私に同伴し、必要に応じて医師との通訳を務めてくれました。いずれも私にとって初めての体験であり、また実習外の活動も非常に楽しく、充実した日々を過ごすことができました。



平成29年度入学 人文学部

この度は、七村奨学金奨学生に採用していただき誠にありがとうございます。

今の私が学業や日常生活を順調に送っているのは、皆様の支えがあってのことです。奨学生として認めていただけたことで、勉学に対する意識がより高まり、より前向きな気持ちで何事にも取り組むことができるようになりました。おかげさまで、自身の夢や目標に専念し、安心して充実した毎日を過ごすことができています。七村守様をはじめ、この奨学金に携わってくださったすべての方々へのご恩と感謝を忘れず七村奨学金奨学生としての自覚と責任を持ち、有意義で実り多い大学生活を送れるよう、そして自らがいただいたご恩を分かち合い地域社会や山口大学の発展に貢献できるような生き方を目指し、より一層努力してまいります。ありがとうございました。

ご寄附いただいた皆様からのメッセージ

*山口大学基金 web ページ でご紹介しています。

- ・基礎力のある、世界に名の出る研究・人が育つことを期待しています。（卒業生）
- ・いつも恩返ししたいです。（元留学生）
- ・山口大学の卒業生であることを誇らしく思います。感謝（卒業生）
- ・日本一 田舎の 日本一 人づくりに良い環境の大学（卒業生）
- ・山大で学んだことが「人生の壁」を乗り越える糧になっています。（卒業生）
- ・3月で卒業ですが、これからも山大の応援団です。（在学生のご家族）
- ・学生たちが、やりたい研究をできるように応援しています。（在学生のご家族）
- ・昨年、海外派遣の支援をいただき、ありがとうございました。（在学生のご家族）

山口大学基金は、ご支援いただいた皆様の想いをしっかり受け止め学生を支援し、皆様の想いを伝えてまいります。

古本募金

ご家庭の不要な書籍、CD、DVD を業者が買い取り、その買取額をご寄附いただけます。

古本の回収は、お電話または Web からの申込で、業者が集荷に伺います。

山口大学総合図書館（吉田・小串・常盤）
でも受け付けています。



遺贈によるご寄附

将来ご相続が発生した際に、相続財産の一部を山口大学へのご寄附（遺贈）としてご検討いただける方へ、提携信託銀行をご紹介いたします。

お気軽に基金事務局へお問い合わせください。

提携信託銀行：三井住友信託銀行

謝意について

ご寄附いただいた皆様には感謝の意を込めて、山口大学基金 Web サイト及び広報誌等でお名前をご紹介し顕彰させていただいております。

桜花爛漫 維新伝心 プロジェクト

～あなたも桜のオーナーに！～

山口大学では、山口市にある吉田キャンパス北側を「国際・社会連携ゾーン～ コミュニティー広場」として整備し、学生・教職員はもとより、本学OB・地域の方々に広く開放することを予定しています。この整備計画の一環として正門～大学会館、吉田寮北側・東側斜面に桜の苗木を植樹し、環境に対する理解と本学に対する愛着、さらには地域や社会との「共育」を推進するため、広く寄附金を募っています。なお、寄附をいただいた団体や個人様へは、その御厚意に報い永く顕彰するため、樹木にネームプレートを取り付けるとともに、その成長を隨時お知らせします。

お問い合わせ <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/71kifuproject/>



山口大学図書館

山口市吉田キャンパスの総合図書館、宇部市小串キャンパスの医学部図書館、宇部市常盤キャンパスの工学部図書館の3館からなる、本学の学習・教育・研究を支援する学術情報基盤施設です。総合図書館は、2013年に増築・改修工事を行い、学生の多様な学修スタイルに対応する、新たな「知の広場」として生まれ変わりました。学生が企画運営する「りふカフェ」も併設しています。3館いずれも卒業生や地域の方へ施設を開放し、資料の貸出も行っています。



○開館時間

総合図書館・工学部図書館

	通常期	休業期
平日	8:30～21:45	8:30～17:30
土・日・祝日	11:15～18:45	休館

休館日：夏季一斉休業日、年末・年始

医学部図書館

	通常期	休業期
平日	8:30～19:15	8:30～17:30
土・日・祝日	13:15～16:45	休館

※詳しい開館予定は、図書館ホームページでご確認ください。



山口大学 東京事務所

「山口大学東京事務所」をご利用ください！

山手線浜松町駅の隣の駅、田町に「山口大学東京事務所」があります。駅前にあるキャンパス・イノベーションセンター（略称：CIC）4階の405号室です。

東京事務所には、テレビ会議システムがあり山口大学の3キャンパスを繋いでいる会議も可能です。また、パソコンやコピー・ファックス・プリンター複合機、打合せスペース（8名程度）、着替えボックス、アイロン、ドライヤー、山口大学履歴書なども備えています。同センターの他のラウンジや会議室も利用（一部有料）できます。本学教職員・学生だけでなく、卒業生の皆さんも利用できます。

ぜひ、東京での活動拠点、会議やセミナー、打合せ等にお気軽にご利用ください。



■東京事務所の開館時間

平日10:00～17:00（土・日・祝日を除く）

■キャンパス・イノベーションセンター

毎日 8:00～22:00（8/13～8/15、12/29～1/3は休館）

利用の際は必ず事前にご連絡ください。

TEL/FAX : 03-5440-9074 E-mail:tokyo@yamaguchi-u.ac.jp <http://dsOn.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~tokyo/>

ひと目でわかる山口大学

卒業生・大学院学位 授与者数

日本全国、世界各国の幅広い分野で活躍中

累計 111,917人

2017年3月31日



教職員数 3,754人

常勤：教員 1,101 人、事務職員 416 人、技術職員 95 人、
医療技術職員 202 人、看護師等 808 人、その他職員 18 人

非常勤：教員 1,114 人 2017年5月1日

基本理念

発見し・はぐくみ・
かたちにする 知の広場



学長 岡 正朗



起源

**2015年
創基 200周年**

長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・山口講堂が前身。東京大学・東北大学に次いで日本で3番目に古い国立大学

明日の山口大学 ビジョン2015

創基 200周年を経て
2025年に向け「ダイバーシティ・キャンパス」を
創造

知的財産教育関係 共同利用拠点

文部科学省認定

- 山口大学の知的財産教育のノウハウを全国展開
- 知財教育・特許等の無料相談窓口を開設

>>詳しくはP31 10月ニュース

公式マスコット キャラクター

ヤマミィ



学生数

10,213人

(うち女子学生
3,740人)



2017年5月1日

学部・大学院

9学部

(人文、教育、経済、理、医、工、農、
共同獣医、国際総合科学)

8研究科

(人文科学、教育学、経済学、医学系、
創成科学、東アジア、技術経営、
連合獣医学)

COC + 事業

全国最大規模

山口県内の159 機関が参画

(高等教育機関 12、地方自治体 20、
民間企業 118、経済団体等 9)

“オールやまぐち”で
若者の活躍を応援中！

>>詳しくはP30



国際交流

**協定数 35カ国・地域
145機関**

外国人留学生数 403 人
海外派遣学生数 521 人



2017年5月1日

山口大学基金

目標10億円

チャレンジ精神にあふれる学生
を育成します

>>詳しくはP35・36

学生の活躍

文化会
洞穴研究会

国指定特別天然記念物の鍾乳洞「秋芳洞」を再測量
» 詳細はP34へ

総延長
全国3位へ

祝全国大会出場

文化会	吹奏学部	第65回全日本吹奏楽コンクール 10月28日(土) 倉敷市民会館
	混声合唱団	第70回全日本合唱コンクール全国大会 11月25日(土)・26日(日) 東京芸術劇場大ホール
体育会	フットサル部	第13回全日本大学フットサル大会 8月26日(土) 岸和田市総合体育館
	バドミントン部 女子団体	秩父宮・秩父宮妃杯争奪 第68回全日本学生バドミントン選手権大会 10月20日(金)～26日(木) 一宮市総合体育館
	陸上競技部 森重恒太さん	秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝対校選手権大会 11月5日(日) 名古屋・熱田神宮-三重・伊勢神宮 (8区間 106.8キロメートル)

祝優勝

第68回中国五大学 学生競技大会 夏季大会	体育会	空手道部(男子・女子)、バトミントン部(女子)、 体操部(女子)、ソフトテニス部(男子・女子)、 弓道部(女子)、硬式野球部
-----------------------------	-----	--



クラブ・サークルなど学生の活躍やイベント情報
などを配信しています！
「いいね！」で応援をお願いします！！



Event Schedule [イベントスケジュール]

11/3 金 4 土 第73回医学祭 (小串キャンパス)

11/12 日 第68回姫山祭 (吉田キャンパス)

11/18 土 第68回常盤祭／工学部ホームカミングデー (常盤キャンパス)

11/18 土 JOBフェア
山口ぎらめき企業の魅力発見フェア2017 (吉田キャンパス)
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として県内73社が出演

詳細は大学webサイト等で確認の上、お越しください。



YU-PRSS

YU-PRSSとは?
ユープラス

広報誌「YU-INFORMATION」や、
山大のWEBサイト内の「キャンパスライフ」ページなどの制作に携わる、
山口大学広報学生スタッフです。

YU-PRSS ("Yamaguchi University Public Relations Student Staff"の略)は、「山大生のあなた(YOU)にも、そうでないあなた(YOU)にもプラスになる情報を届けたい」との想いを込めてつけられました。
現在13名のメンバーで広報活動を行っています。



YU-PRSS MEMBER

家永 菊美絵	佐藤 加奈	宮地 弘子
家永 展寛	徐 眈実	宮本 晃伸
鳥田 苑実	高松 安奈	横山 智香
北山 育実	田中 春佳	
近藤 守	田中 裕万	

「キャンパスライフ」はコチラを
CHECK! ➤

http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/